

東北地方生物多様性重要地点・種データベース
作成業務

報 告 書

平成 22 年 9 月

日本工営株式会社

目 次

	Page
第1章 業務概要	1-1
1.1 業務名	1-1
1.2 業務目的	1-1
1.3 業務委託機関	1-1
1.4 業務受託機関	1-1
1.5 履行期間	1-1
1.6 実施体制	1-2
1.7 業務項目	1-2
1.8 業務対象地域	1-2
第2章 生物多様性重要な種・地点の情報収集及び整備	2-1
2.1 概要	2-1
2.2 文献等調査	2-2
2.3 リストの作成	2-3
2.4 データベースの構築	2-10
第3章 保全活動の情報収集及び整備	3-1
3.1 調査概要	3-1
3.2 文献等調査	3-2
3.3 リストの作成	3-5
3.4 まとめ	3-20
第4章 リーフレットの作成	4-1
4.1 目的	4-1
4.2 対象	4-1
4.3 基本的な考え方	4-1
4.4 構成及び掲載項目の選定	4-2
4.5 掲載写真の出典	4-2
4.6 参考文献	4-4
4.7 成果品	4-4

第1章 業務概要

1.1 業務名

東北地方生物多様性重要地点・種データベース作成業務

1.2 業務目的

わが国の既知の生物種類は9万種以上、分類されていないものも含めると30万種を超えると推定されており、狭い国土面積にも係らず豊かな生物相を有している。また、固有種率が高いことも特徴で、両生類の8割、爬虫類の6割、陸棲哺乳類及び維管束植物の4割が固有種である。一方、環境省レッドリストでは、わが国の野生動植物種のうち3,155種（両生類及び汽水・淡水魚類の3割強、哺乳類及び維管束植物の2割強、鳥類の1割強）が絶滅のおそれのある種に分類されている。

現在、「種の保存法」に基づき、81種の野生動植物種が「国内希少野生動植物種」に指定されており、(平成21年現在)、更なる指定に向けた作業が継続されているが、地域ごとの野生生物の生息・生育状況、保全上重要な地点、保全のための活動等に関する情報は必ずしも十分に収集・整理されていないのが実情である。

生物多様性条約締約国会議では、意志決定に至るまでのプロセスに、政府代表のほか地域ごとに生物多様性保全の活動を行う自治体、NGO、研究者が参画しており、生物多様性条約第10回締約国会議及びカルタヘナ議定書第5回締約国会議においても、多様な主体の参画とそれらの意見の反映・発信が重要な課題となっている。

そのため、生物多様性保全上重要な種・地点・活動の情報を地域ごとに収集・整理したうえで、その普及・啓発に努める必要がある。

本業務では、東北地方における野生生物のうち、高等植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫を対象に、その生息情報について既存文献等を元に情報収集し、地理情報システム（GIS）上に情報を格納することで、生息地保全に資することを目的とする。併せ、生物多様性の保全に取り組む地域活動や文化継承活動について、具体的な活動内容や活動地域、対象となる生物種群団体・個人の別や規模等を情報収集し、**GIS データベースを作成する。**

加えて、収集・整理した情報に基づいて、生物多様性条約第10回締約国会議で配布する啓発用リーフレットを作成することを目的とする。

1.3 業務委託機関

環境省 東北地方環境事務所

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 3-2-23

TEL : 022-722-2876 FAX : 022-722-2872

担当：野生生物課 課長 大沼 次郎
 同上 課長補佐 多田 由喜男
 同上 課長補佐 村上 智

1.4 業務受託機関

日本工営株式会社 仙台支店

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 3-1-11

TEL : 022-227-3525 FAX : 022-263-7189

1.5 履行期間

履行期間は以下に示すとおりである。

自) 平成 22 年 7 月 14 日

至) 平成 22 年 9 月 30 日

1.6 実施体制

本業務は表 1-1 に示す組織体制により実施した。

表 1-1 業務組織計画

	技術者名	所属・役職	担当する分担業務の内容
業務責任者	わたなべ ひとし 渡辺 仁	社会システム事業部 環境部	
担当技術者	すがわら あや 菅原 綾	社会システム事業部 環境部	統括補助
	こじま じゅん 小島 淳	仙台支店 技術部	既存資料等調査、データベース 作成
	あずま なおゆき 東 尚之	社会システム事業部 環境部	既存資料等調査、データベース 作成、リスト作成
	わたなべ ゆきこ 渡辺 由起子	コンサルタント海外事業本部 環境事業部環境技術部	COP10 用資料作成
	こまつ けんた 小松 健太	社会システム事業部 環境部	既存資料等調査
	のむら りえ 野村 理絵	社会システム事業部 環境部	既存資料等調査

1.7 業務内容及び項目

東北地方の生物多様性重要地点・種および保全活動の情報を把握し、生物多様性条約第10回締約国会議に情報提供するとともに今後の普及啓発に資するために、以下の業務を実施した。

本業務における業務項目を以下に示す。

- (1) 文献等調査
- (2) リストの作成
- (3) データベースの構築
- (4) リーフレットの作成
- (5) その他

1.8 業務対象地域

東北地方環境事務所管轄地域内

1.9 作業フロー

本業務の作業フローを図 1-1 に示す。

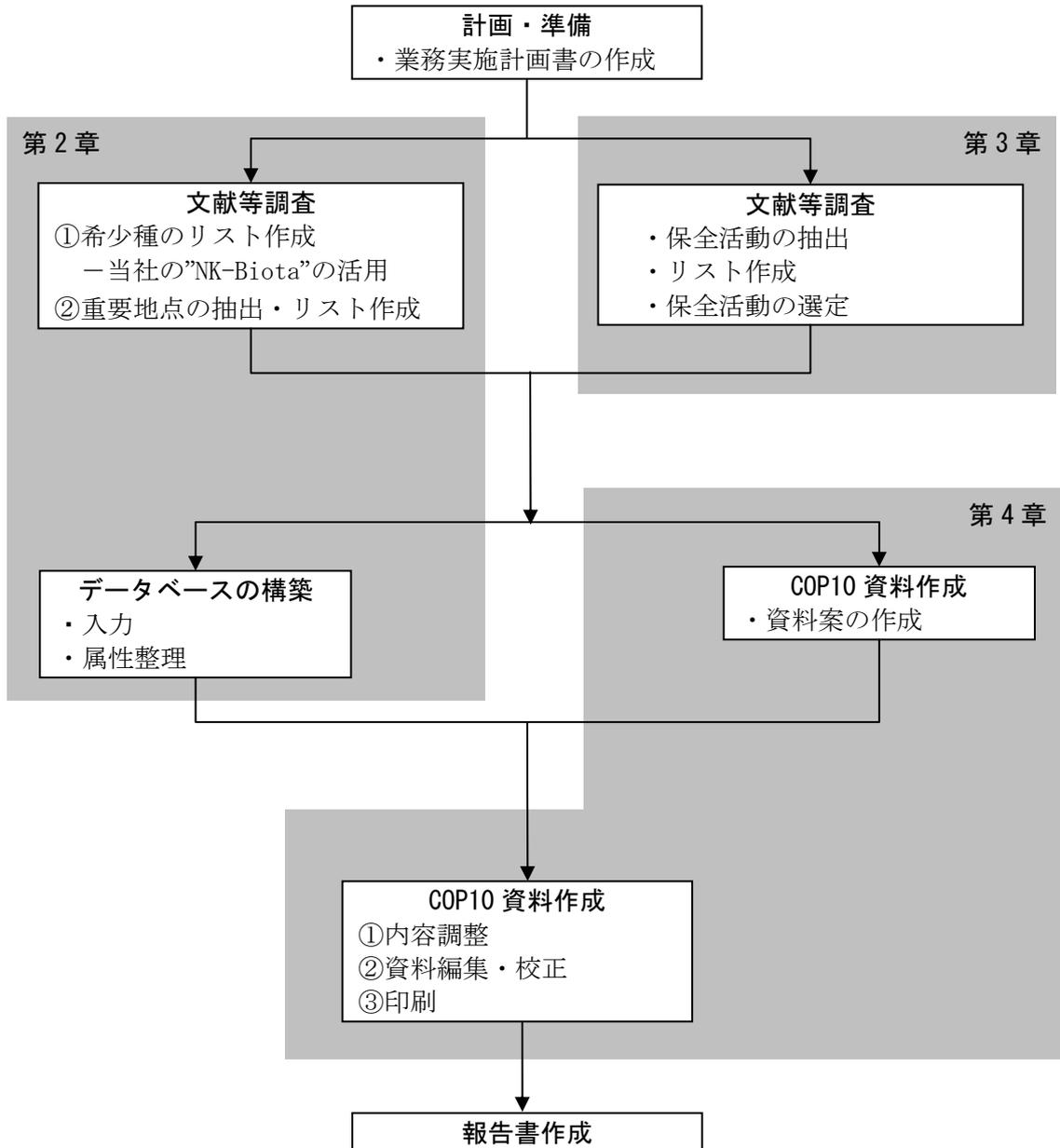


図 1-1 業務の作業フロー

第2章 生物多様性重要な種・地点の情報収集及び整備

2.1 概要

本業務の実施にあたり、東北地方の生物多様性重要な種・地点の情報を把握し、生物多様性条約第10回締約国会議に情報提供するとともに今後の普及啓発に資するために、調査を実施した。

重要な種・地点の情報収集及び整備における調査フローを図2-1に示す。

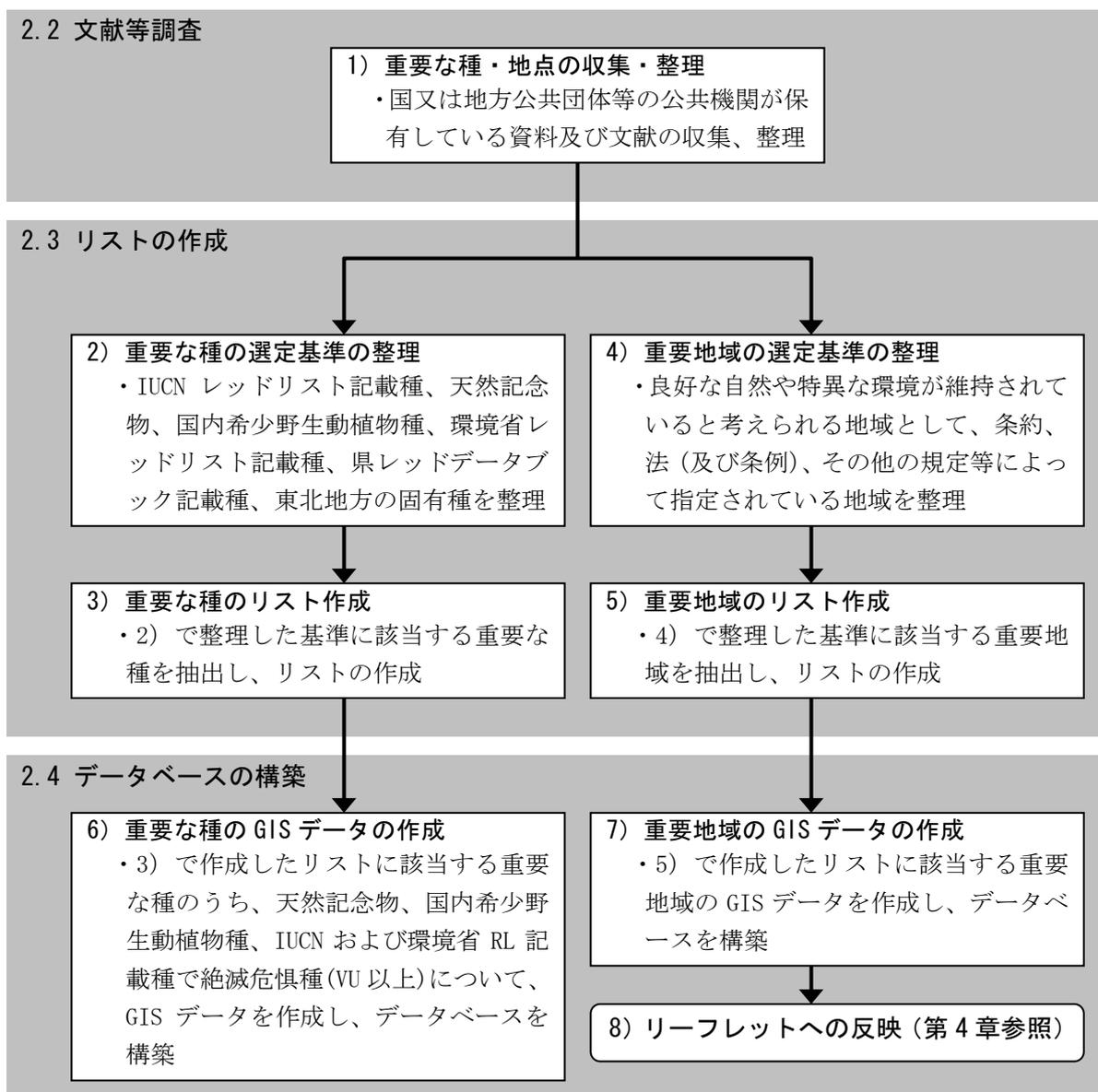


図 2-1 重要な種・地点の情報収集及び整備における調査フロー

2.2 文献等調査

東北地方の生物多様性保全上重要な種・地点の情報を把握するため、既存資料等から調査を実施した。

2.2.1 調査項目

調査項目を表 2-1に示す。

表 2-1 調査項目一覧

調査項目		備考
重要な種	植物	高等植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）
	動物	哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類
重要な地点		

2.2.2 調査方法

国又は地方公共団体等の公共機関が保有している資料及び文献の収集、整理を行う方法によった。以下に収集した東北地方の生物多様性保全上重要な種・地点に関する既存資料を示す。

表 2-2 既存資料一覧

調査項目		既存資料
重要な種	植物	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県野生植物目録，細井幸兵衛，1994. 12 ・岩手県植物誌，岩手植物の会，1970 ・岩手県野生生物目録，岩手県生活環境部自然保護課，2001. 3 ・宮城県植物目録 2000，宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会，2001. 3 ・宮城県維管束植物目録，上野雄規，2008. 12 ・秋田県植物目録第 9 版，藤原陸夫・松田義徳・阿部裕紀子，2000. 5 ・山形県の植物誌，結城嘉美，1992. 7 ・福島県植物誌，福島県植物誌編さん委員会，1987. 12
	動物	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全基礎調査(第 2 回～第 6 回)
重要な地点		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然公園，国立公園協会・日本自然保護協会，1989. 6 ・東北地区生物多様性情報地図(リーフレット)，環境省自然環境局東北地区自然保護事務所，2003. 3 ・自然環境保全地域区域及び保全計画図 ・国指定鳥獣保護区区域図 ・日本のラムサール条約湿地(パンフレット)，環境省 ・東北地方の緑の回廊(リーフレット)，東北森林管理局指導普及課 ・保護林及び緑の回廊位置図，関東森林管理局

2.3 リストの作成

「2.2 文献等調査」で収集・整理した資料から得られた情報をもとに、重要な種リスト及び重要地域リストの作成を行った。

2.3.1 重要な種リストの作成

(1) 重要な種の選定基準

重要な種の選定基準は、天然記念物、国内希少野生動植物種、IUCNレッドリスト記載種、環境省レッドリスト記載種、県レッドデータブック記載種、東北地方の固有種とした。重要な種の選定基準を表 2-3に示す。

表 2-3 重要な種の選定基準

No	選定基準	編集、発行	発行年	
①	文化財保護法	天然記念物	法律第 214 号	昭和 25 年 5 月 30 日
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	国内希少野生動植物種	法律第 75 号	平成 4 年 6 月 5 日
③	The IUCN Red List of Threatened Species(2009)	表 2-4 (1)参照	IUCN(国際自然保護連合)	平成 21 年 11 月 3 日
④	鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて	表 2-4 (2)参照	環境省自然環境局野生生物課(環境省報道発表資料)	平成 18 年 12 月 22 日
	哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて			平成 19 年 8 月 3 日
⑤	青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)-	表 2-4 (3)参照	青森県	平成 22 年 3 月
⑥	いわてレッドデータブック	表 2-4 (4)参照	岩手県	平成 13 年 3 月
⑦	宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドデータブック-	表 2-4 (5)参照	宮城県	平成 13 年 3 月
⑧	秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 2002-秋田県版レッドデータブック-植物編	表 2-4 (6)参照	秋田県環境と文化のむら協会	平成 14 年
	秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 2002-秋田県版レッドデータブック-動物編			
⑨	レッドデータブックやまがた 絶滅危惧野生植物(維管束植物)	表 2-4 (7)参照	山形県野生植物調査研究会	平成 16 年 3 月
	レッドデータブックやまがた 山形県の絶滅のおそれのある野生動物		山形県環境保護課	平成 15 年 3 月
⑩	レッドデータブックふくしま I-福島県の絶滅のおそれのある野生生物-(植物・昆虫類・鳥類)	表 2-4 (8)参照	福島県生活環境部環境政策室 自然保護グループ	平成 14 年 3 月
	レッドデータブックふくしま II-福島県の絶滅のおそれのある野生生物-(淡水魚類/両生・爬虫類/哺乳類)			平成 15 年 3 月
⑪	その他(日本植生誌 東北(宮脇昭)、県植物誌で固有種または特産種の記載がある種)	固有種	—	—

表 2-4(1) 選定基準(IUCN レッドリスト 2009)

・IUCN レッドリスト 2009		
選定基準	Extinct(EX)	すでに絶滅したと考えられる種
	Extinct in Wild(EW)	飼育・栽培下であるいは過去の分布域外に、個体(個体群)が帰化して生息している状態のみ生存している種
	Critically Endangered (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	Endangered(EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	Vulnerable(VU)	絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
	Near Threatened(NT)	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
	Least Concern(LC)※	基準に照らし、上記のいずれにも該当しない種。分布が広いものや、個体数の多い種がこのカテゴリーに含まれる。
	Data Deficient(DD)	評価するだけの情報が不足している種

※ 絶滅の危機に瀕していないと考えられることから、選定基準から除外する

表 2-4(2) 選定基準(環境省レッドリスト)

・鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて		
選定基準	絶滅(EX)	わが国ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅(EW)	飼育・栽培下でのみ残存している種
	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧 IA 類(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧 IB 類(EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧 II 類(VU)	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
	情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

表 2-4(3) 選定基準(青森県レッドデータブック)

・青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)-		
選定基準	絶滅野生生物(EX)	県内では、既に絶滅したと考えられる野生生物
	最重要希少野生生物(A)	県内では、絶滅の危機に瀕している野生生物
	重要希少生物(B)	県内では、絶滅の危機が増大している野生生物
	希少野生生物(C)	県内では、生息・生育を存続する基盤が脆弱な野生生物
	要調査野生生物(D)	県内では、生息・生育情報が不足している野生生物
	地域限定希少野生生物(LP)	県内では、地域内に孤立している個体群で、地域レベルでの絶滅のおそれが高い野生生物

表 2-4(4) 選定基準(岩手県レッドデータブック)

・いわてレッドデータブック		
選定基準	絶滅(Ex)	すでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅(Ew)	飼育・栽培下でのみ存続している種
	A ランク	1 絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種
		2 岩手県固有で分布が局限しており、存続基盤が極めて脆弱な種
	B ランク	絶滅の危機が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来 A ランクに移行することが考えられるもの
	C ランク	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては A ランク及び B ランクに移行する要素を有するもの
	D ランク	1 C ランクに準ずる種
2 優れた自然環境の指標となる種		
3 岩手県を南限又は北限とする種等		
情報不足	情報不足	

表 2-4(5) 選定基準(宮城県レッドデータブック)

・宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドデータブック－		
選定基準	絶滅(EX)	本県ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅(EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種
	絶滅危惧 I 類(CR+EN)	本県において絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧 II 類(VU)	本県において絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧(NT)	存続基盤が脆弱な種
	情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
	要注目種	本県では、現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

表 2-4(6) 選定基準(秋田県レッドデータブック)

・秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 2002-秋田県版レッドデータブック-植物編 ・秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 2002-秋田県版レッドデータブック-動物編		
選定基準	絶滅種(EX)	本県ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅種(EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種
	絶滅危惧種 I 類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧 IA 種(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧 IB 種(EN)	絶滅危惧 IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧 II 類(VU)	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧種(NT)	存続基盤が脆弱な種
	情報不足種(DD)	評価するだけの情報が不足している種
	地域個体群(LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅の恐れが高いもの。
	分布上希少な雑種(RH)	生育地が局限されレッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される雑種で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。
	留意種(N)	①本県では絶滅の恐れはないが、国際的、国内的に保護を要するとされている種。
		②現在は保護策が講じられていて、差し迫った危機はないが、それが中止されれば絶滅危惧 II 類以上の危険度になる種。 ③過去に個体数・分布が著しく減少した種など。 ④他の機関で準絶滅危惧種以上の評価を受けている種。

表 2-4(7) 選定基準(山形県レッドデータブック)

・レッドデータブックやまがた 絶滅危惧野生植物(維管束植物) ・レッドデータブックやまがた 山形県の絶滅のおそれのある野生動物		
選定基準	絶滅(EX)	過去に生息・生育したことが確認されており、すでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅(EW)	保護を目的として、組織・団体による飼育・栽培下でのみ存続している種
	絶滅危惧種 I 類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧 IA 種(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧 IB 種(EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧 II 類(VU)	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧種(NT)	存続基盤が脆弱な種
	情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
	要注目種	隔離分布・特異的分布種、分布北限・南限種、特産種、模式産地種、特別天然記念物(種指定)のいずれかに該当するもの

表 2-4(8) 選定基準(福島県レッドデータブック)

・レッドデータブックふくしま I-福島県の絶滅のおそれのある野生生物-(植物・昆虫類・鳥類) ・レッドデータブックふくしま II-福島県の絶滅のおそれのある野生生物-(淡水魚類/両生・爬虫類/哺乳類)		
選定基準	絶滅(野生絶滅生物含む)(EX+EW)	本県ではすでに絶滅したと考えられるか飼育・栽培下でのみ存続している種および亜種・変種
	絶滅危惧 I 類(A)	絶滅の危機に瀕している種および亜種・変種
	絶滅危惧 II 類(B)	絶滅の危険が増大している種および亜種・変種
	準絶滅危惧(C)	存続基盤が脆弱な種および亜種・変種
	希少(D)	個体数が少ないもしくは生息地が限られている種および亜種・変種
	注意(N)	注意すべき種および亜種・変種
	未評価(NE)	評価できなかった種および亜種・変種

(2) 重要な種の抽出結果

「2.2 文献等調査」で収集した生物リストを元に重要な種を抽出した結果、東北地方の重要種は、哺乳類 38 種、鳥類 149 種、両生類 11 種、爬虫類 8 種、魚類 51 種、昆虫類 253 種、植物 1759 種が抽出された。抽出された重要な種の概要を表 2-5に示す。なお、重要な種の一覧は、資料編に示す。

表 2-5 重要な種の概要

分類群	目科種	IUCN	天然記念物	種の保存法	環境省 RL	青森県 RDB	岩手県 RDB	宮城県 RDB	秋田県 RDB	山形県 RDB	福島県 RDB	固有種
哺乳類	7 目 16 科 38 種	10	2	0	14	22	23	15	29	13	20	0
鳥類	18 目 44 科 149 種	13	7	7	45	86	90	47	94	75	68	0
両生類	2 目 4 科 11 種	2	0	0	5	4	5	8	1	5	9	1
爬虫類	2 目 5 科 8 種	4	0	0	3	4	6	4	2	4	6	0
魚類	10 目 16 科 51 種	1	0	0	38	25	12	17	29	24	22	1
昆虫類	4 目 33 科 253 種	7	0	1	58	91	84	161	56	57	49	2
植物	157 科 1759 種	9	0	2	421	295	554	507	863	450	648	46
合計		46	9	10	584	527	774	759	1074	628	822	50

2.3.2 重要地域リストの作成

(1) 重要地域の選定基準

重要地域の選定基準は、良好な自然や特異な環境、動植物の生息・生育環境が、条約や法・条例によって保護されている地域として、世界遺産条約、ラムサール条約、自然公園法、自然環境保全法・条例、鳥獣保護法・条例で登録・指定されている地域とした。

また、これに加えて、湿地および森林生態系の保全上重要と考えられ、国が独自に選定・設定し維持管理や普及啓発が行われている地域として、日本の重要湿地 500、緑の回廊、保護林で選定・設定されている地域とした。重要地域の選定基準を表 2-6に示す。

表 2-6 重要地域の選定基準

No	種類	選定根拠	選定基準	
1	条約	世界遺産条約(世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約)	世界自然遺産	顕著な普遍的価値を有する地形や地質、生態系、景観、絶滅のおそれのある動植物の生息・生育地などを含むとして登録された地域
2		ラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)	ラムサール条約湿地	特に水鳥の生息地等として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進することを目的として登録された地域
3	法・条例	自然公園法	国立公園	日本を代表する傑出した自然の風景地として指定された地域
			国定公園	国立公園に準ずる優れた自然の風景地として指定された地域
			県立自然公園	優れた自然の風景地として県が指定した地域
4		自然環境保全法	国指定自然環境保全地域	ほとんど人の手が加わっていない原生の状態が保たれている地域や、高山植生や優れた天然林、特異な自然等が維持されている地域について、自然環境の適正な保全を図るために指定された地域
		自然環境保全条例	県指定自然環境保全地域等	県が豊かな自然や身近な自然の保全を図るために指定した地域
5		鳥獣保護法(鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律)	国指定鳥獣保護区	鳥獣の保護繁殖を図るために国によって指定された地域
			鳥獣保護条例(鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する条例)	県指定鳥獣保護区
6	その他	環境省	日本の重要湿地 500	湿原、河川、湖沼、干潟、藻場、マングローブ林、サンゴ礁など、生物多様性保全の観点から重要と考えられる湿地について、環境省が選定した地域
7		林野庁	緑の回廊	森林生態系保護地域等の貴重な保護林同士を連結して、連続した自然林を回復することにより、本来生息・生育する野生動植物の広域的なつながりを確保し、分断された個体群の相互交流、生物多様性の保全に寄与するため設定された地域
	保護林*		原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、施業及び管理技術の発展等に特に資することを目的として、区域を定め、禁伐等の管理経営を行うことにより、保護を図っている森林	

※ 保護林は、緑の回廊として整理されている地域を整理

(2) 重要地域の整理結果

重要地域の抽出の結果、東北地方で 1303 の重要地域が抽出された。抽出された重要地域の概要を表 2-7に示す。なお、重要地域の一覧は、資料編に示す。

表 2-7 重要地域の概要

No.	選定基準	重要地域	指定箇所数
1	世界遺産条約	世界自然遺産	1
2	ラムサール条約	ラムサール条約湿地	6
3	自然公園法	国立公園	5
		国定公園	9
		県立自然公園	48
4	自然環境保全法	国指定自然環境保全地域	3
	自然環境保全条例	県自然環境保全条例指定地域	162
5	鳥獣保護法	国指定鳥獣保護区	16
	鳥獣保護条例	県指定鳥獣保護区	933
6	環境省	日本の重要湿地 500	67
7	林野庁	緑の回廊	6
		保護林	47
総計			1303

2.4 データベースの構築

「2.3 リストの作成」にて作成したリストを元に、生物多様性保全上重要地域および重要な種のGISデータの作成を行った。

2.4.1 重要な種データベースの構築

(1) 東北地方における生物多様性上重要な種の整理

東北地方における生物多様性上重要な種として、重要な種の選定基準が各県で同一であること、保全の優先度が高いと考えられることから、天然記念物、国内希少野生動植物種、IUCN レッドリストおよび環境省レッドリストで絶滅危惧種 (VU 以上) に該当する種について、GIS データの整理を行うこととした。

GISデータとして整理した重要な種の概要を表 2-8に、一覧を表 2-9に示す。

表 2-8 GIS データとして整理した重要な種の概要

分類群	目科種	天然記念物	種の保存法	IUCN	環境省 RL
哺乳類	5 目 5 科 9 種	2	0	5	5
鳥類	11 目 20 科 35 種	7	7	6	31
両生類	1 目 1 科 1 種	0	0	1	1
爬虫類	1 目 2 科 2 種	0	0	2	1
魚類	8 目 10 科 17 種	0	0	0	17
昆虫類	4 目 15 科 35 種	0	1	3	35
植物	80 科 312 種	0	2	3	311
	合計	9	10	20	402

表 2-9(1) GIS データとして整理した重要な種一覧 (哺乳類)

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				天然記念物	種の保存法	IUCN	環境省 RL
1	コウモリ目	ヒナコウモリ科	クロホオヒゲコウモリ			EN	EN
2			ノレンコウモリ				VU
3			モリアブラコウモリ			EN	EN
4			コヤマコウモリ			VU	VU
5			テングコウモリ				VU
6	ネズミ目	ヤマネ科	ヤマネ	天			
7	ネコ目	クマ科	ツキノワグマ			VU	
8	アザラシ目	アシカ科	オットセイ			VU	
9	ウシ目	ウシ科	ニホンカモシカ	特天			
計	5 目	5 科	9 種	2	0	5	5

表 2-9(2) GISデータとして整理した重要な種一覧（鳥類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
1	ミズナギドリ目	ウミツバメ科	ヒメクロウミツバメ				VU
2			クロコシジロウミツバメ				CR
3	ペリカン目	ウ科	ヒメウ				EN
4	コウノトリ目	サギ科	サンカノゴイ				EN
5			オオヨシゴイ				EN
6			ミゾゴイ			EN	EN
7			カラシラサギ			VU	
8		トキ科	クロツラヘラサギ			EN	CR
9	カモ目	カモ科	コクガン	天			VU
10			マガン	天			
11			ヒシクイ	天			VU
12			トモエガモ			VU	VU
13	タカ目	タカ科	オジロワシ	天	国内		EN
14			オオタカ		国内		
15			サシバ				VU
16			クマタカ		国内		EN
17			イヌワシ	天	国内		EN
18		チュウヒ				EN	
19		ハヤブサ科	ハヤブサ		国内		VU
20	ツル目	ツル科	タンチョウ	特天	国内	EN	VU
21		クイナ科	ヒクイナ				VU
22	チドリ目	セイタカシギ科	セイタカシギ				VU
23		ツバメチドリ科	ツバメチドリ				VU
24		カモメ科	コアジサシ				VU
25		ウミスズメ科	ケイマフリ				VU
26	ウミスズメ					CR	
27	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ				VU
28	ブッポウソウ目	ブッポウソウ科	ブッポウソウ				EN
29	キツツキ目	キツツキ科	クマゲラ	天			VU
30	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ				VU
31		モズ科	チゴモズ				CR
32			アカモズ				EN
33		ウグイス科	オオセッカ		国内		EN
34		ホオジロ科	コジュリン				VU
35			ノジコ			VU	
計	11 目	20 科	35 種	7	7	6	31

表 2-9(3) GISデータとして整理した重要な種一覧（両生類）

No.	目和名	科和名	種和名	選定基準			
				天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
1	サンショウウオ目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ			VU	VU
計	1 目	1 科	1 種	0	0	1	1

表 2-9(4) GISデータとして整理した重要な種一覧（爬虫類）

No.	目和名	科和名	種和名	選定基準			
				天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
1	カメ目	イシガメ科	クサガメ			EN	EN
2		スッポン科	スッポン			VU	
計	1 目	2 科	2 種	0	0	2	1

表 2-9(5) GISデータとして整理した重要な種一覧（魚類）

No.	目和名	科和名	種和名	選定基準				
				天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL	
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ				VU	
2			カワヤツメ				VU	
3	コイ目	コイ科	タナゴ				EN	
4			アカヒレタビラ				EN	
5			ゼニタナゴ				CR	
6			ウケクチウグイ				EN	
7			シナイモツゴ				CR	
8			ドジョウ科	ホトケドジョウ				EN
9			ナマズ目	ギギ科	ギバチ			
10	アカザ科	アカザ					VU	
11	サケ目	サケ科	ヒメマス				CR	
12	ダツ目	メダカ科	メダカ				VU	
13	トゲウオ目	トゲウオ科	トミヨ属(淡水型・雄物型)				CR*	
14	カサゴ目	カジカ科	カマキリ				VU	
15			カジカ(中卵型・小卵型)				EN	
16	スズキ目	ハゼ科	シロウオ				VU	
17			エドハゼ				VU	
計	8 目	10 科	17 種	0	0	0	17	

※ トミヨ属雄物型の場合

表 2-9(6) GISデータとして整理した重要な種一覧（昆虫類）

No.	目和名	科和名	種和名	選定基準			
				天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
1	トンボ目	イトトンボ科	オオセズジイトトンボ				CR+EN
2			ベニイトトンボ				VU
3			ヒヌマイイトトンボ			VU	CR+EN
4		モノサシトンボ科	オオモノサシトンボ				CR+EN
5		アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ				CR+EN
6		エゾトンボ科	ハネヒロエゾトンボ				VU
7		トンボ科	ベッコウトンボ		国内	CR	CR+EN
8			マダラナニワトンボ			EN	CR+EN
9			オオキトンボ				CR+EN
10	カメムシ目	コオイムシ科	タガメ				VU
11	コウチュウ目	ハンミョウ科	カワラハンミョウ				VU
12			ハラヒロハンミョウ				VU
13		ゲンゴロウ科	マルコガタノゲンゴロウ				CR+EN
14			コガタノゲンゴロウ				CR+EN
15			エゾゲンゴロウモドキ				VU
16			オオイチモンジシマゲンゴロウ				CR+EN
17		クワガタムシ科	オオクワガタ				VU
18	チョウ目	セセリチョウ科	ホシチャバネセセリ				CR+EN
19			チャマダラセセリ				CR+EN
20		アゲハチョウ科	ギフチョウ				VU
21		シロチョウ科	ツマグロキチョウ				VU
22			ヤマキチョウ				VU
23			ヒメシロチョウ				VU
24		シジミチョウ科	ウスイロオナガシジミ				CR+EN
25			チョウセンアカシジミ				VU
26			キタアカシジミ				VU
27			ミヤマシジミ				VU
28			ゴマシジミ				VU
29			クロシジミ				CR+EN
30			オオルリシジミ				CR+EN
31		タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン				CR+EN
32			オオイチモンジ				VU
33	コヒョウモンモドキ					VU	
34	ヒョウモンモドキ					CR+EN	
35	ジャノメチョウ科	クロヒカゲモドキ				VU	
計	4 目	15 科	35 種	0	1	3	35

表 2-9(7) GISデータとして整理した重要な種一覧 (植物 1/7)

No.	科和名	種和名	選定基準			
			天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
1	ヒカゲノカズラ科	チシマヒカゲノカズラ				EN
2		スギラン				VU
3	ミズニラ科	ミズニラモドキ				VU
4	ハナヤスリ科	ミヤマハナワラビ				CR
5		ヒメハナワラビ				VU
6	ミズワラビ科	ヒメウラジロ				VU
7	チャセンシダ科	オオタニワタリ				VU
8		ヤマドリトラノオ				CR
9		オクタマシダ				VU
10	オンダ科	イワカゲワラビ				VU
11	メンダ科	コウライイヌワラビ				VU
12	ウラボシ科	オオエゾデンダ				EN
13	デンジソウ科	デンジソウ				VU
14	アカウキクサ科	アカウキクサ				VU
15		オオアカウキクサ				VU
16	マツ科	ヤツガタケトウヒ			EN	EN
17		ヒメバラモミ			VU	VU
18	スギ科	コウヤマキ			VU	
19	ヒノキ科	リシリビャクシン				VU
20	ヤナギ科	ユビソヤナギ				VU
21	カバノキ科	チチブミネバリ				EN
22	イラクサ科	トキホコリ				VU
23		タチゲヒカゲミズ				VU
24	ツチトリモチ科	ミヤマツチトリモチ				VU
25	タデ科	ナンブトラノオ				CR
26		ヒメタデ				VU
27		ヤナギヌカボ				VU
28		ヌカボタデ				VU
29		コギシギシ				VU
30	スベリヒユ科	ヌマハコベ				VU
31	ナデシコ科	カトウハコベ				VU
32		チョウカイフスマ				VU
33		ミツモリミミナグサ				VU
34		エンビセンノウ				EN
35		タチハコベ				VU
36		ナンブワチガイソウ				VU
37		クシロワチガイソウ				VU
38		チシマツメクサ				CR
39		アオモリマンテマ				VU
40		イトハコベ				VU
41	アカザ科	ミドリアカザ				CR
42		アッケシソウ				VU
43	キンポウゲ科	センウズモドキ				VU
44		オンタケブシ				CR
45		ワガトリカブト				VU
46		ミョウコウトリカブト				VU
47		クロバナハンショウヅル				VU
48		ヒメキンポウゲ				VU
49		オキナグサ				VU

表 2-9(7) GISデータとして整理した重要な種一覧 (植物 2/7)

No.	科和名	種和名	選定基準			
			天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
50	キンボウゲ科	コキツネノボタン				VU
51		ヒキノカサ				VU
52		ヒメバイカモ				EN
53		チトセバイカモ				EN
54		チャボカラマツ				VU
55		ミョウギカラマツ				CR
56		イワカラマツ				VU
57	メギ科	クモイイカリソウ				VU
58	スイレン科	オニバス				VU
59		ネムロコウホネ				VU
60		オゼコウホネ				VU
61		ヒメコウホネ				VU
62	ウマノスズクサ科	ミチノクサイシン				VU
63	ボタン科	ベニバナヤマシャクヤク				VU
64	オトギリソウ科	アゼオトギリ				EN
65		エゾオトギリ				VU
66	モウセンゴケ科	ナガバノモウセンゴケ				VU
67	ケシ科	ツルキケマン				EN
68	アブラナ科	エゾノジャニンジン				VU
69		ナンブイヌナズナ				EN
70		ミギワガラシ				VU
71		ハリナズナ				EN
72	ベンケイソウ科	ミセバヤ				EN
73		ムラサキベンケイソウ				VU
74		ツガルミセバヤ				VU
75		コモチレンゲ				VU
76	ユキノシタ科	トカチスグリ				VU
77	バラ科	チョウセンキンミズヒキ				VU
78		キンロバイ				VU
79		ヒロハノカワラサイコ				VU
80		イワテヤマナシ				CR
81		マメナシ				EN
82		アオナシ				VU
83		シロヤマブキ				EN
84		ナンブトウウチソウ				EN
85		エゾシモツケ				VU
86		マメ科	チョウセンニワフジ			
87	アマ科	マツバニンジン				CR
88	ヒメハギ科	ヒナノキンチャク				EN
89	カエデ科	クロビイタヤ				VU
90		シバタカエデ				EN
91	ニシキギ科	アンドンマユミ				CR
92	スマレ科	チシマウスバスマレ				VU
93		シロコスミレ				CR
94		タチスマレ				VU
95		セナミスミレ				VU
96	ミソハギ科	ミズキカシグサ				VU
97		ミズマツバ				VU
98	ヒシ科	ヒメビシ				VU

表 2-9(7) GISデータとして整理した重要な種一覧 (植物 3/7)

No.	科和名	種和名	選定基準			
			天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
99	アカバナ科	ヤマタニタデ				VU
100		オオアカバナ				VU
101	アリノトウグサ科	オグラノフサモ				VU
102	セリ科	ミシマサイコ				VU
103		サワゼリ				VU
104	イチヤクソウ科	カラフトイチヤクソウ				VU
105		エゾイチヤクソウ				EN
106	ツツジ科	チシマツガザクラ				VU
107		ヤチツツジ				EN
108		ゴヨウザンヨウラク				CR
109		チョウセンヤマツツジ				EN
110	サクラソウ科	トチナイソウ				EN
111		ミチノクコザクラ				VU
112		ヒメコザクラ				CR
113	マチン科	ヒメナエ				VU
114	リンドウ科	イイデリンドウ				VU
115		ホソバツルリンドウ				VU
116		イヌセンブリ				VU
117	ミツガシワ科	ヒメシロアサザ				VU
118	キョウチクトウ科	バシクルモン				VU
119	ガガイモ科	フナバラソウ				VU
120	アカネ科	ハナムグラ				VU
121		ハクチョウゲ				EN
122	ハナシノブ科	エゾハナシノブ				VU
123	ヒルガオ科	マメダオシ				CR
124	ムラサキ科	ムラサキ				EN
125		ツルカメバソウ				EN
126	シソ科	カイジンドウ				VU
127		ツルカコソウ				EN
128		ルリハッカ				CR
129		ムシャリンドウ				VU
130		ミズトラノオ				VU
131		キセワタ				VU
132		コナミキ				VU
133		エゾナミキソウ				VU
134		エゾニガクサ				CR
135		イヌニガクサ				CR
136	ゴマノハグサ科	マルバノサワトウガラシ				VU
137		マルバコゴメグサ				VU
138		オオアブノメ				VU
139		スズメハコベ				VU
140		ゴマノハグサ				VU
141		イヌノフグリ				VU
142	ゴマ科	ヒシモドキ				EN
143	ハマウツボ科	ハマウツボ				VU
144	タヌキモ科	フサタヌキモ				EN
145		ヤチコタヌキモ				VU
146	スイカズラ科	エゾヒョウタンボク				VU
147		スルガヒョウタンボク				EN

表 2-9(7) GISデータとして整理した重要な種一覧 (植物 4/7)

No.	科和名	種和名	選定基準				
			天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL	
148	スイカズラ科	チシマヒョウタンボク				VU	
149		キタカミヒョウタンボク				CR	
150		ヤブヒョウタンボク				EN	
151		ハナヒョウタンボク				VU	
152		ベニバナヒョウタンボク				VU	
153		オニヒョウタンボク				VU	
154	キキョウ科	マルバノニンジン				CR	
155		バアソブ				VU	
156		キキョウ				VU	
157	キク科	ホロマンノコギリソウ				VU	
158		ホソバエゾノコギリ				EN	
159		オニオトコヨモギ				VU	
160		イワヨモギ				VU	
161		オオバヨモギ				EN	
162		シオン				VU	
163		ウラギク				VU	
164		ヤナギタウコギ				CR	
165		アイズヒメアザミ				CR	
166		ガンジュアザミ				EN	
167		オゼヌマアザミ				VU	
168		イワギク				VU	
169		チョウセンノギク				EN	
170		ホソバムカシヨモギ				VU	
171		アキノハハコグサ				VU	
172		ホソバオグルマ				VU	
173		タカサゴソウ				VU	
174		ホソバヒナウスユキソウ				VU	
175		ハヤチネウスユキソウ				EN	
176		オオヒラウスユキソウ				VU	
177		ミヤマキタアザミ				VU	
178		ヒメヒゴタイ				VU	
179		コウリンカ				VU	
180		エゾヨモギギク				VU	
181		クザカイトンポポ				EN	
182		オナモミ				VU	
183		オモダカ科	トウゴクヘラオモダカ				EN
184			マルバオモダカ				VU
185	トチカガミ科	セトヤナギスブタ				EN	
186		マルミスブタ				VU	
187		スブタ				VU	
188		ミズオオバコ				VU	
189	ホロムイソウ科	ホソバノシバナ				VU	
190	ヒルムシロ科	ホソバヒルムシロ				VU	
191		コバノヒルムシロ				VU	
192		ササエビモ				VU	
193		ツツイトモ				VU	
194		ネジリカワツルモ				CR	
195		ヤハズカワツルモ				CR	
196		イトクズモ				VU	

表 2-9(7) GISデータとして整理した重要な種一覧 (植物 5/7)

No.	科和名	種和名	選定基準				
			天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL	
197	アマモ科	オオアマモ				VU	
198		タチアマモ				VU	
199	イバラモ科	ムサシモ				CR	
200		サガミトリゲモ				VU	
201		トリゲモ				VU	
202		イトイバラモ				EN	
203	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ				VU	
204	ユリ科	ステゴビル				VU	
205		クロヒメシライトソウ				VU	
206		ヒメアマナ				EN	
207		ミヤマスカシユリ				EN	
208		カノコユリ				VU	
209		コウライワニグチソウ				EN	
210		アッカゼキショウ				CR	
211		ゲイビゼキショウ				EN	
212		コジマエンレイソウ				VU	
213		シラオイエンレイソウ				VU	
214		ヒロハアマナ				VU	
215		イグサ科	エゾノミクリゼキショウ				EN
216			セキショウイ				EN
217			ミヤマゼキショウ				CR
218	ホシクサ科	クロイヌノヒゲモドキ				VU	
219		ユキイヌノヒゲ				EN	
220		ヤマトホシクサ				VU	
221		ミカワイヌノヒゲ				VU	
222		ハライヌノヒゲ				EN	
223		アズマホシクサ				VU	
224		イネ科	ユキクラヌカボ				EN
225	ザラツキヒナガリヤス					EN	
226	ツクシガヤ					EN	
227	キタメヒシバ					EN	
228	ヤマオオウシノケグサ					EN	
229	ナンプソモソモ					EN	
230	タチイチゴツナギ					EN	
231	サトイモ科		マイヅルテンナンショウ				VU
232	ウキクサ科	ヒンジモ				VU	
233	ミクリ科	ホソバウキミクリ				VU	
234		アズマミクリ				VU	
235		ヒメミクリ				VU	
236	カヤツリグサ科	イトテンツキ				VU	
237		タルマイスゲ				VU	
238		タカネシバスゲ				EN	
239		ジョウロウスゲ				VU	
240		ヌマアゼスゲ				VU	
241		クリイロスゲ				VU	
242		オクタマツリスゲ				CR	
243		カンチスゲ				EN	
244		ハタバスゲ				EN	
245		イトナルコスゲ				VU	

表 2-9(7) GISデータとして整理した重要な種一覧 (植物 6/7)

No.	科和名	種和名	選定基準				
			天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL	
246	カヤツリグサ科	アカンスゲ				EN	
247		ヌマクロボスゲ				VU	
248		ホロムイクグ				VU	
249		ダケスゲ				VU	
250		クグスゲ				EN	
251		ヒロハイッポンスゲ				EN	
252		ヌマスゲ				CR	
253		オノエスゲ				VU	
254		エゾハリスゲ				EN	
255		サヤスゲ				EN	
256		ヌイオスゲ				VU	
257		タチガヤツリ				EX	
258		カンエンガヤツリ				VU	
259		ニイガタガヤツリ				CR	
260		チシママツバイ				VU	
261		シロミノハリイ				EN	
262		コツブヌマハリイ				VU	
263		チャボイ				VU	
264		トネテンツキ				VU	
265		タカネクロスゲ				VU	
266		ヒメカンガレイ				VU	
267		ビヤッコイ				VU	
268		ラン科	ヒナラン				EN
269			コアニチドリ				VU
270			ミスズラン				CR
271			キンセイラン				VU
272	ナツエビネ					VU	
273	キソエビネ					CR	
274	サルメンエビネ					VU	
275	ヒメホテイラン					VU	
276	ユウシュンラン					VU	
277	キンラン					VU	
278	クゲヌマラン					VU	
279	モイワラン					CR	
280	トケンラン					VU	
281	カンラン					CR	
282	チョウセンキバナアツモリソウ			国内		CR	
283	クマガイソウ					VU	
284	アツモリソウ			特定国内		VU	
285	キバナノアツモリソウ					EN	
286	キリガミネアサヒラン					EN	
287	ハマカキラン					VU	
288	トラキチラン					EN	
289	アオキラン					CR	
290	シロテンマ					CR	
291	ナヨテンマ					EN	
292	ヒロハツリシュスラン					EN	
293	フジチドリ					EN	
294	サワトンボ					CR	

表 2-9(7) GISデータとして整理した重要な種一覧 (植物 7/7)

No.	科和名	種和名	選定基準			
			天然 記念物	種の 保存法	IUCN	環境省 RL
295	ラン科	ミズトンボ				VU
296		ヒメミズトンボ				VU
297		クシロチドリ				CR
298		ヒメノヤガラ				VU
299		ギボウシラン				EN
300		フガクスズムシソウ				VU
301		クモイジガバチ				CR
302		ヤチラン				EN
303		サカネラン				VU
304		ヒナチドリ				VU
305		ウチョウラン				VU
306		タカネトンボ				VU
307		ガッサンチドリ				EN
308		マツラン				VU
309		モミラン				VU
310		ヒロハトンボソウ				VU
311		イイヌマムカゴ				EN
312	オオハクウンラン				VU	
計	80 科	312 種	0	2	3	311

選定基準

天然記念物：文化財保護法により、保護されている種及び亜種

特天：国指定特別天然記念物

天：国指定天然記念物

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において以下の項目に選定されている種及び亜種

国内：国内希少野生動植物種

特定国内：特定国内希少野生動植物種

IUCN：The IUCN Red List of Threatened Species(2009)

EX：絶滅…すでに絶滅したと考えられる種

EW：野生絶滅…飼育・栽培下であるいは過去の分布域外に、個体(個体群)が帰化して生息している状態のみ生存している種

CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続いて作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

環境省 RL：鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて、環境省報道発表資料、2006 年 12 月、哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて、環境省報道発表資料、2007 年 8 月

EX：絶滅…すでに絶滅したと考えられる種

EW：野生絶滅…飼育・栽培下であるいは過去の分布域外に、個体(個体群)が帰化して生息している状態のみ生存している種

CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続いて作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

(2) GISデータの作成

動物の重要な種のGISデータは、生物多様性センター（環境省自然環境局）保有の「自然環境保全基礎調査(第2回～第6回)」3次メッシュデータを整理した。3次メッシュのデータがない種については、2次メッシュデータを整理した。分類群毎のデータ数を表2-10に示す。

植物の重要な種のGISデータは、県植物誌に記載されている地域を市区町村単位で整理した。なお、青森県および秋田県は、植物誌に地域の情報が記載されていないことから、GISデータは作成していない。県毎のデータ数を表2-11に示す。

表 2-10 動物の分類群毎のデータ数

分類群	データ数 / 3次メッシュ	データ数 / 2次メッシュ
哺乳類	11851	11896
鳥類	1004	2493
両生類	6	6
爬虫類	7	7
魚類	1595	1635
昆虫類	1567	1710
計	16030	17747

表 2-11 植物の県毎のデータ数

県	データ数
青森県	—
岩手県	768
宮城県	590
山形県	260
秋田県	1※
福島県	426
計	2045

※ 出展は岩手県植物誌

GISデータの活用の一例として、整理したGISデータを元に、動物はデータ数の多い2次メッシュ毎に、植物は市区町村毎に確認種数の集計を行った。集計した結果を図2-2に示す。

動物は1メッシュあたりの確認種数の中央値が4種であったことから、4種毎に5段階で区分した。整理の結果、青森県の下北半島や津軽半島、陸奥湾周辺、宮城県伊豆沼・内沼周辺、釜房湖周辺、秋田県の鳥海山周辺、福島県の夏井川河口で重要な種が多く確認されている。

植物は1地域あたりの確認種数の中央値が6種であったことから、6種毎に5段階で区分した。整理の結果、北上高地周辺、盛岡市、仙台市、いわき市、尾瀬で重要な種が多く確認されている。

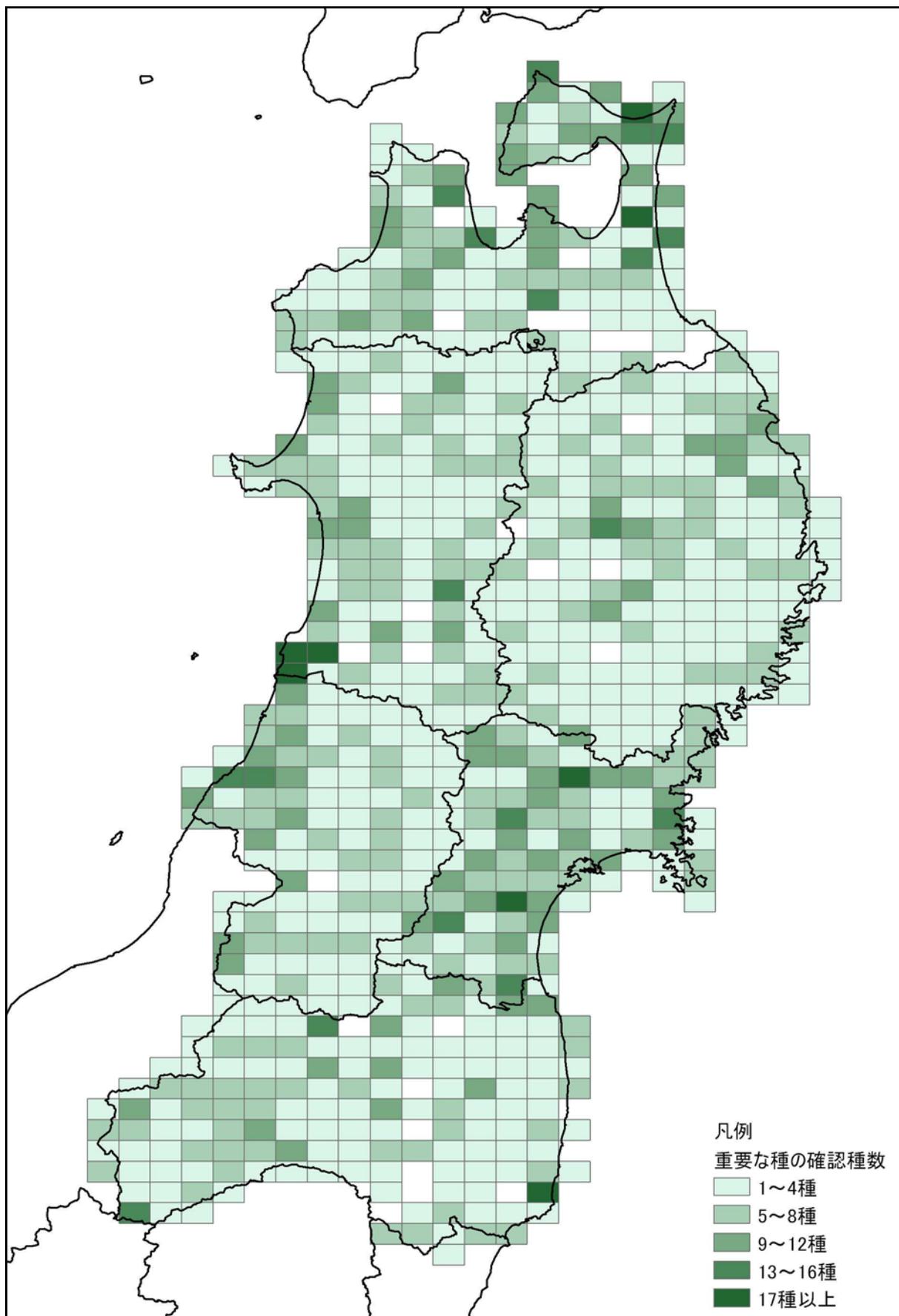


図 2-2(1) 重要な種の確認種数集計結果（動物、中央値：4種）

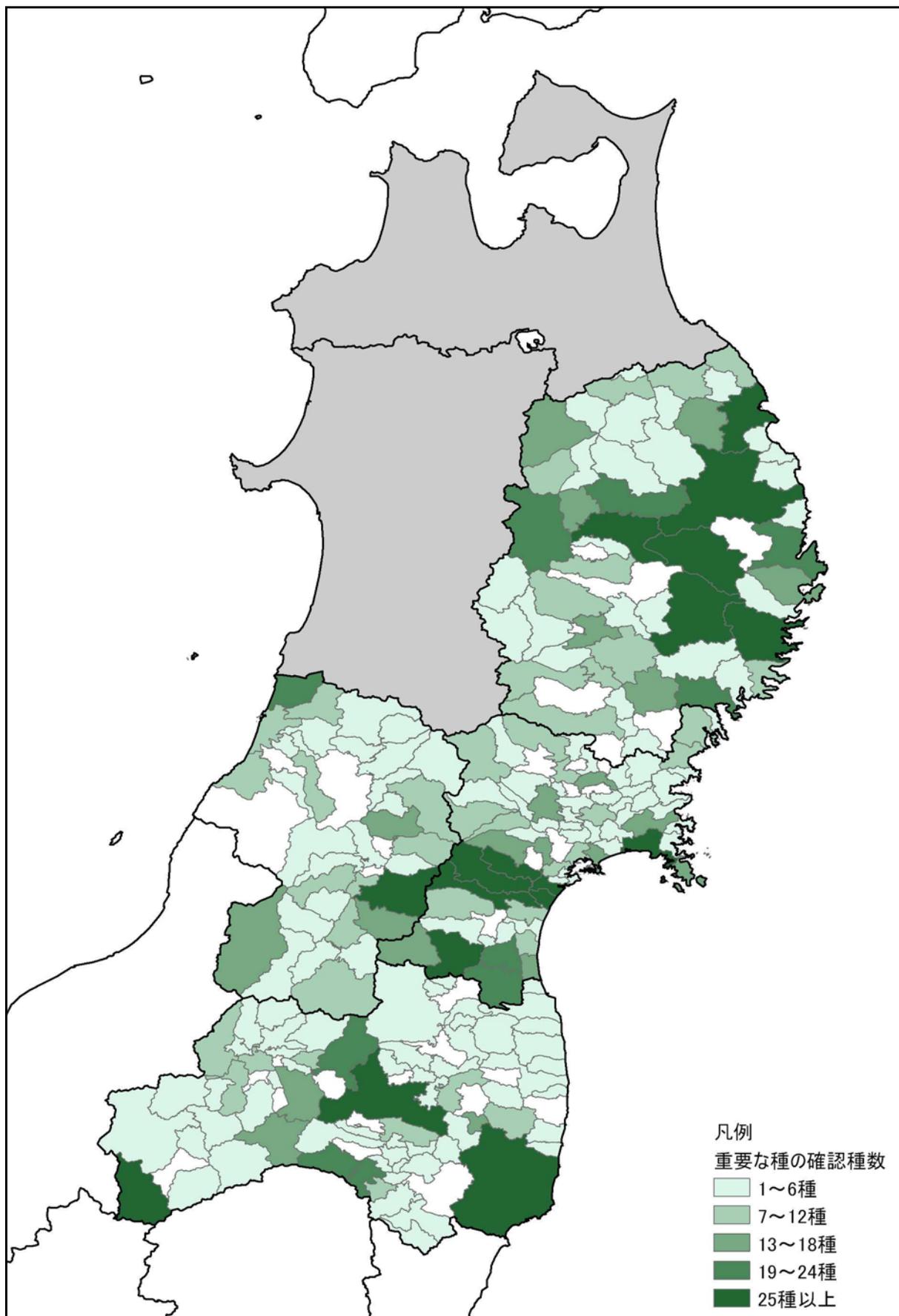


図 2-2(2) 重要な種の確認種数集計結果（植物、中央値：6種）

2.4.2 重要地域データベースの構築

GISデータは、インターネットよりダウンロードが可能なものはそれを利用し、GISデータがないものは新規で作成を行った。作成したGISデータの出展および作成内容を表 2-12 に示す。なお、GISデータは、世界測地系（JGD2000）にて作成した。

表 2-12 重要地域 GIS データの出展および作成内容

No	重要地域	出展	GIS データの作成内容
1	世界自然遺産	白神山地マップ ^{※1}	元図のトレース
2	ラムサール条約湿地	日本のラムサール条約湿地	元図のトレース
3	国立公園	国土数値情報 ^{※2}	ダウンロードデータの修正
4	国定公園		
5	県立自然公園		
6	国指定自然環境保全地域		
7	県自然環境保全条例指定地域	国土数値情報 ^{※2} 、各県 HP の位置図	ダウンロードデータの修正、元図のトレース
8	国指定鳥獣保護区	国土数値情報 ^{※2}	ダウンロードデータの修正
9	県指定鳥獣保護区		
10	日本の重要湿地 500	東北地方生物多様性情報地図	元図のトレース
11	緑の回廊	東北地方の緑の回廊、保護林及び緑の回廊位置図	元図のトレース
12	保護林		

※1：白神山地世界遺産センターHP より

http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/tohoku/banner/10/04_map.html

※2：GIS ホームページ（国土数値情報ダウンロードサービス），国土交通省国土計画局参事官室

<http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/gis/index.html>

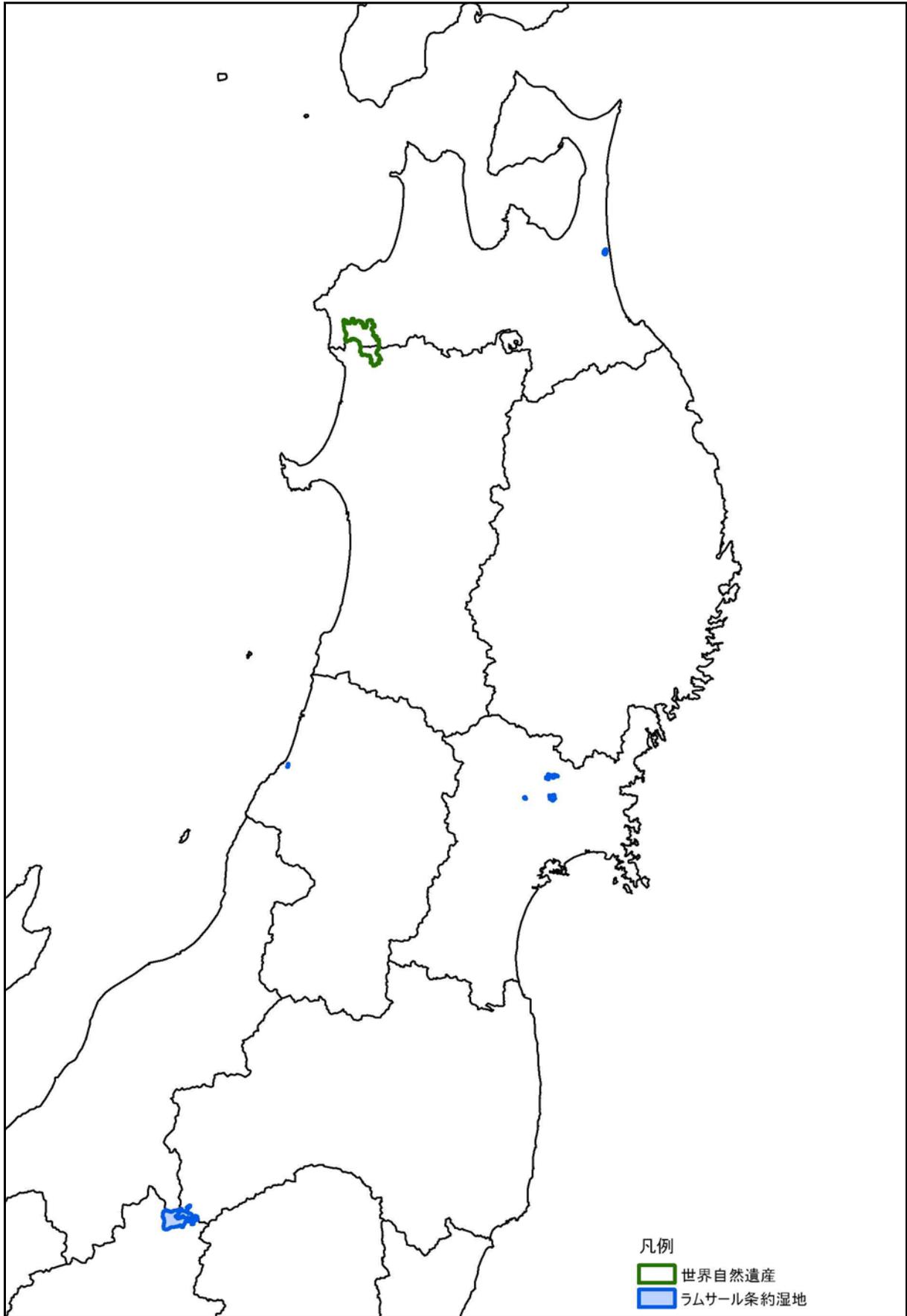


図 2-3(1) 重要地域位置図 (世界自然遺産、ラムサール条約湿地)

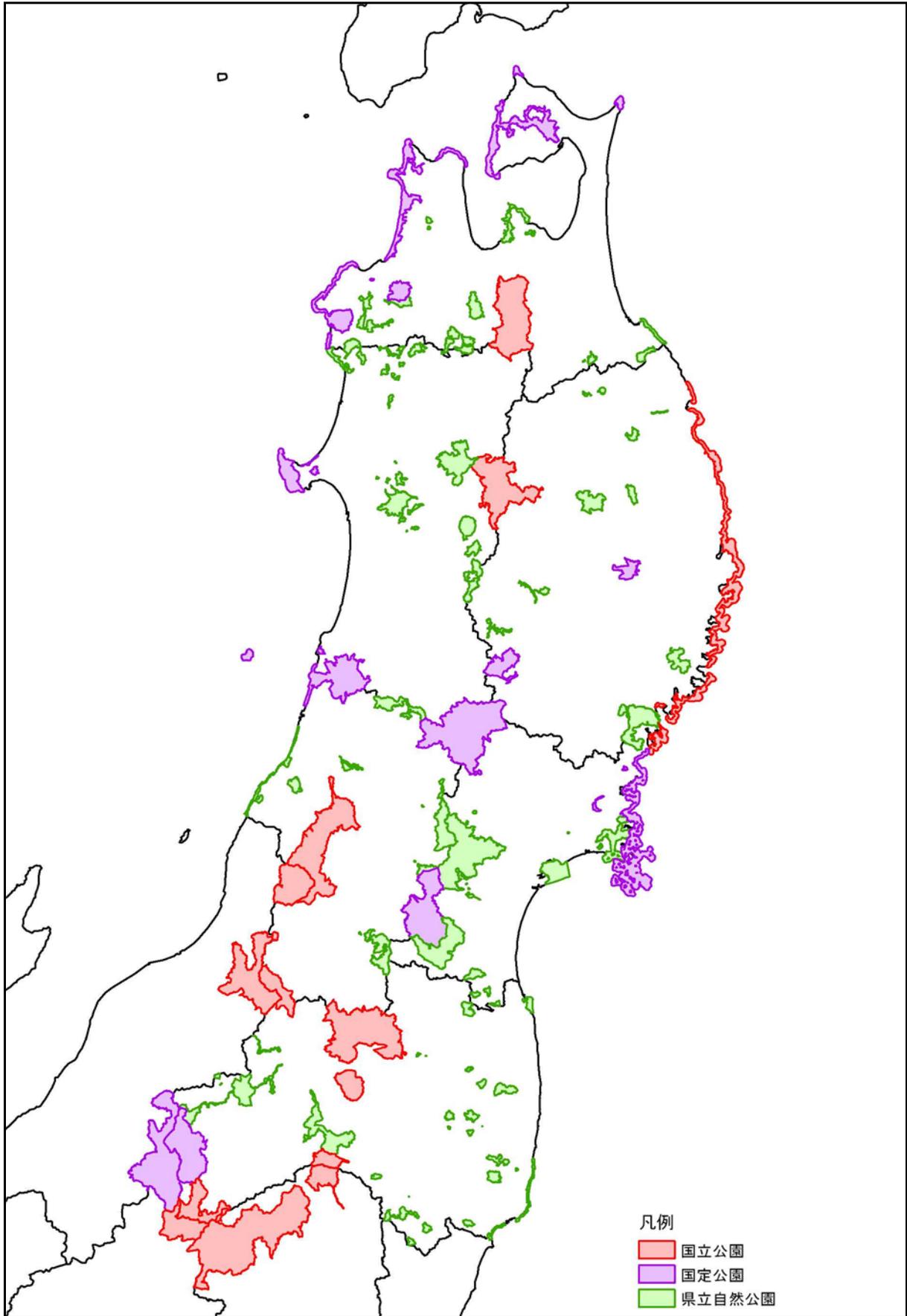


图 2-3(2) 重要地域位置图 (自然公園)

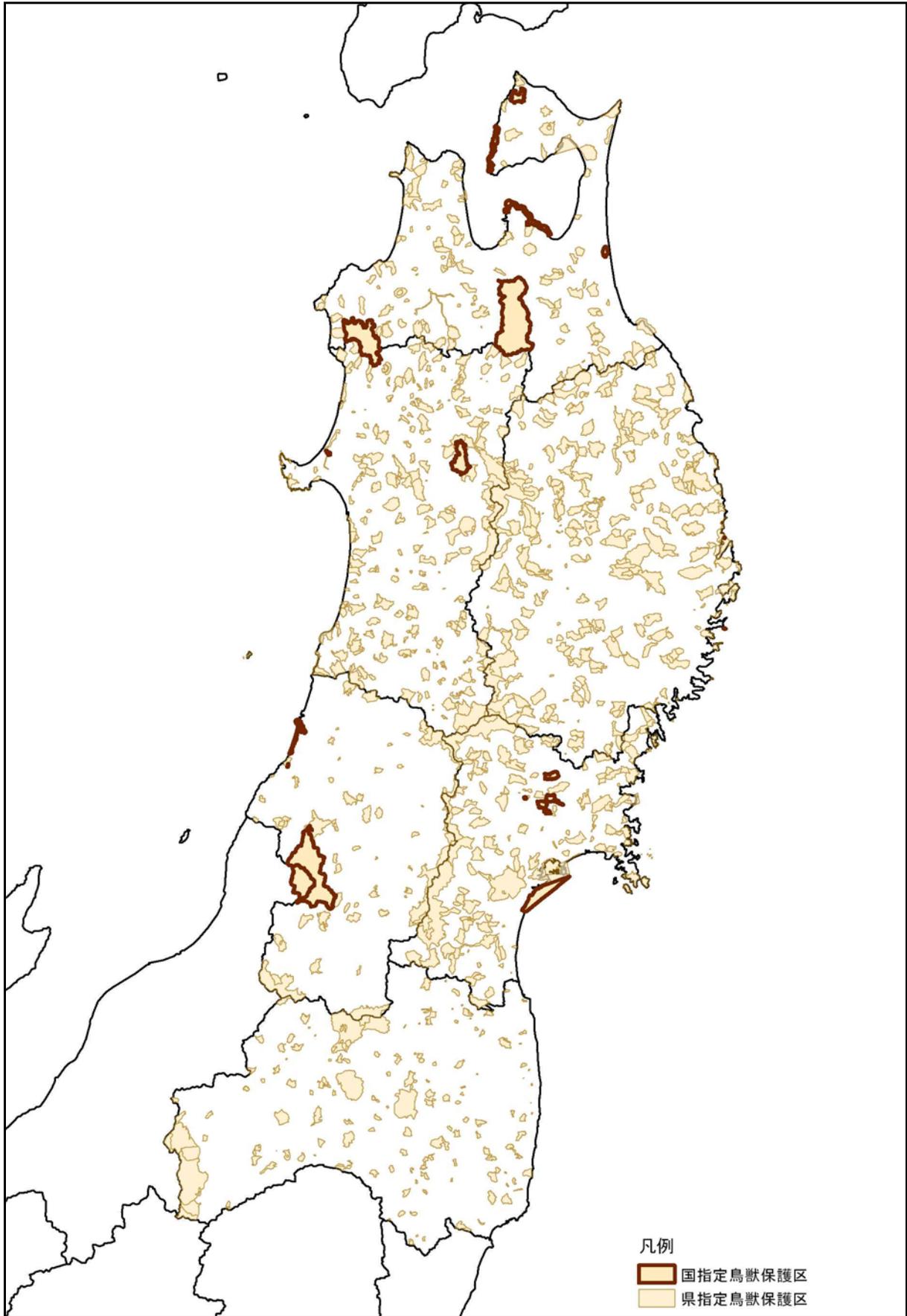


图 2-3(3) 重要地域位置图 (鳥獣保護区)

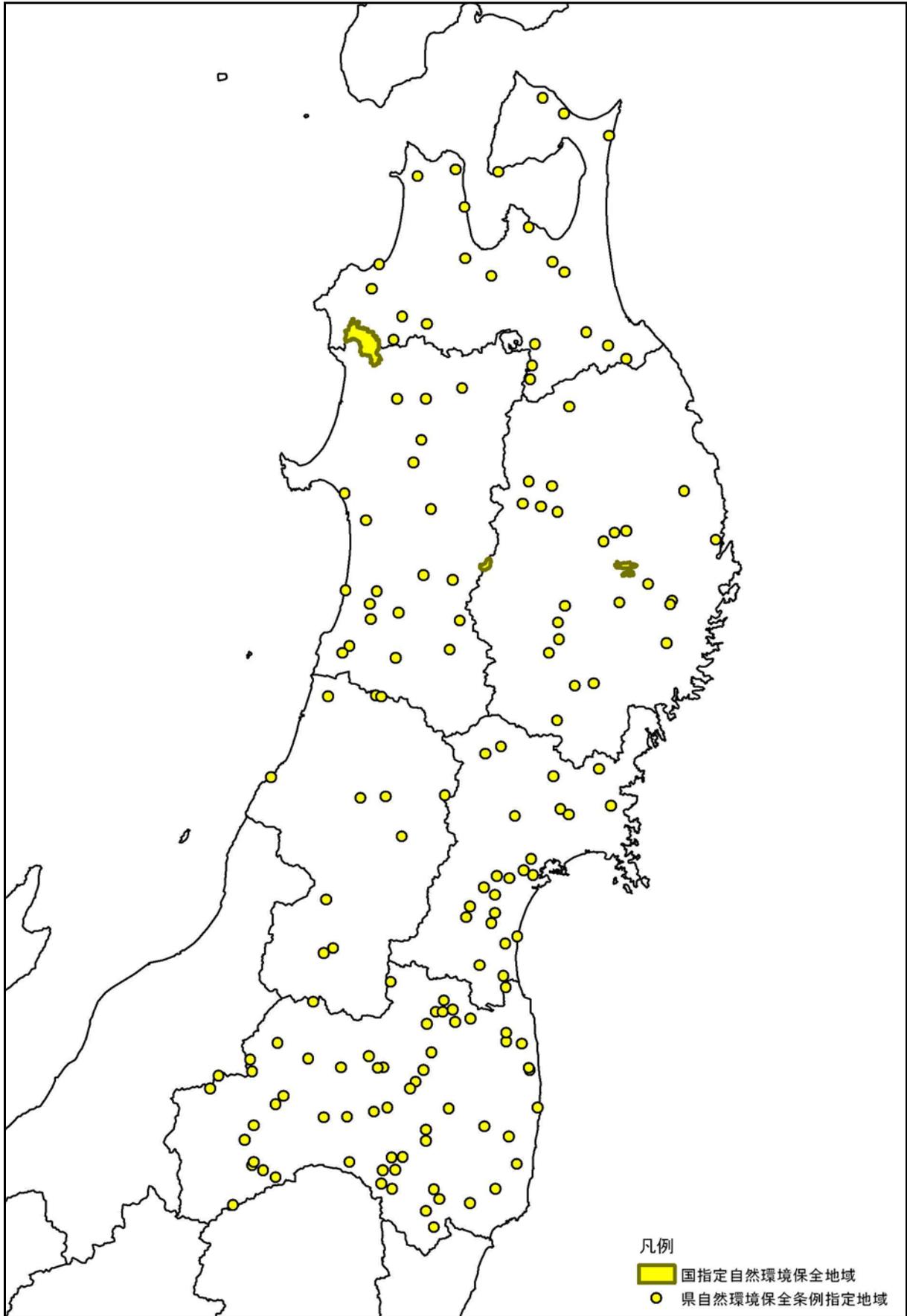


图 2-3(4) 重要地域位置图 (自然環境保全地域等)

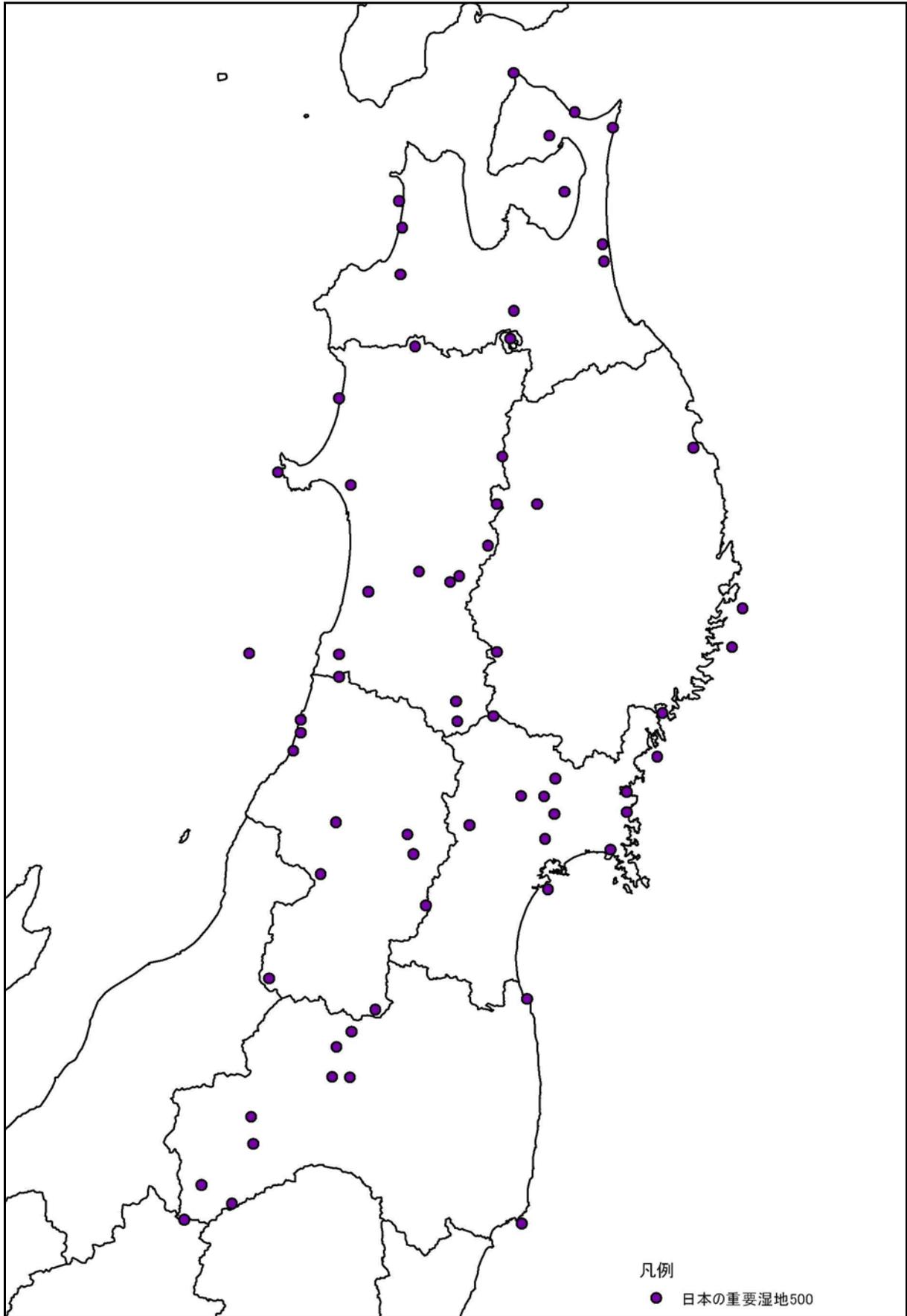


図 2-3(5) 重要地域位置図 (日本の重要湿地 500)

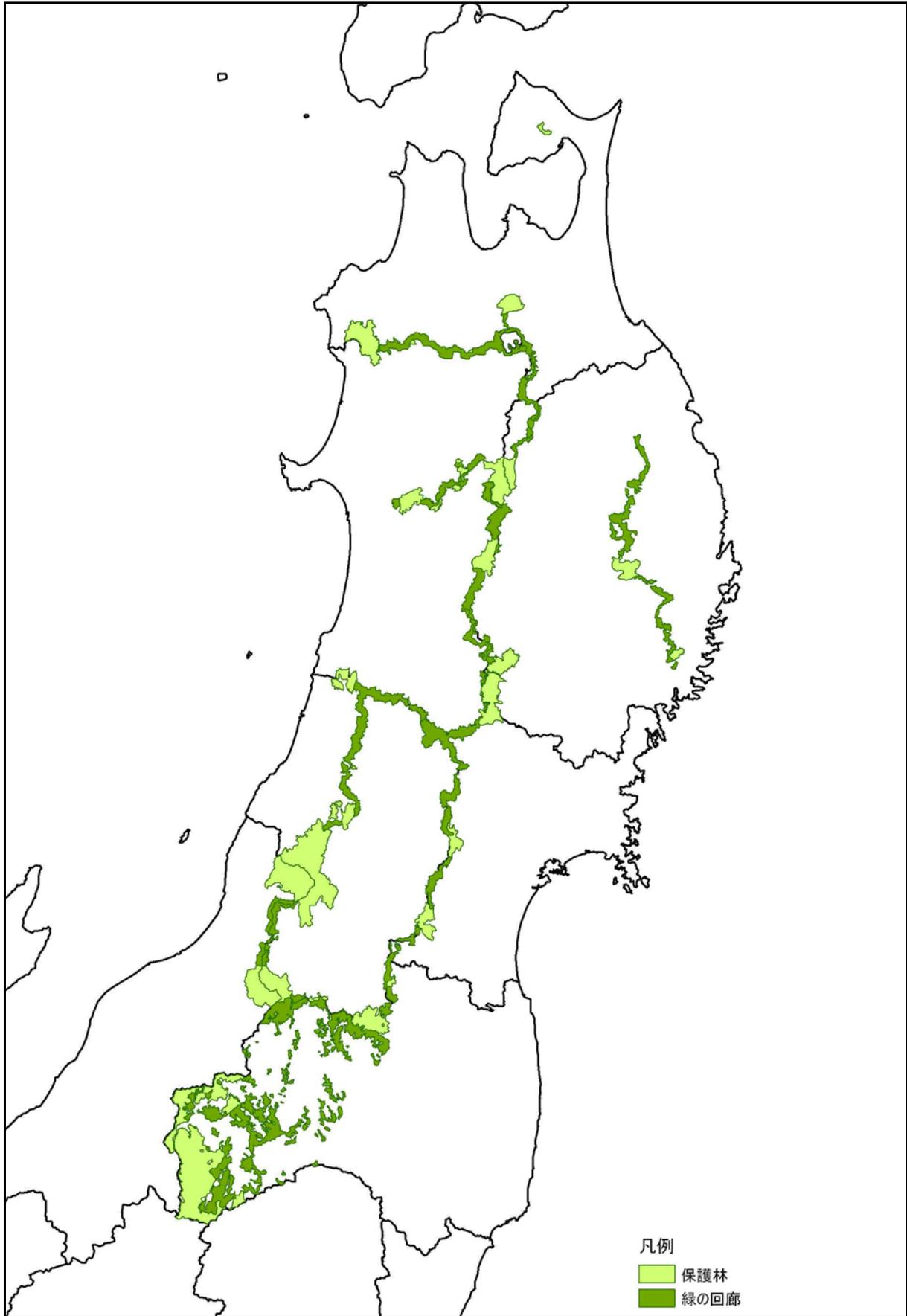


図 2-3(6) 重要地域位置図（保護林、緑の回廊）

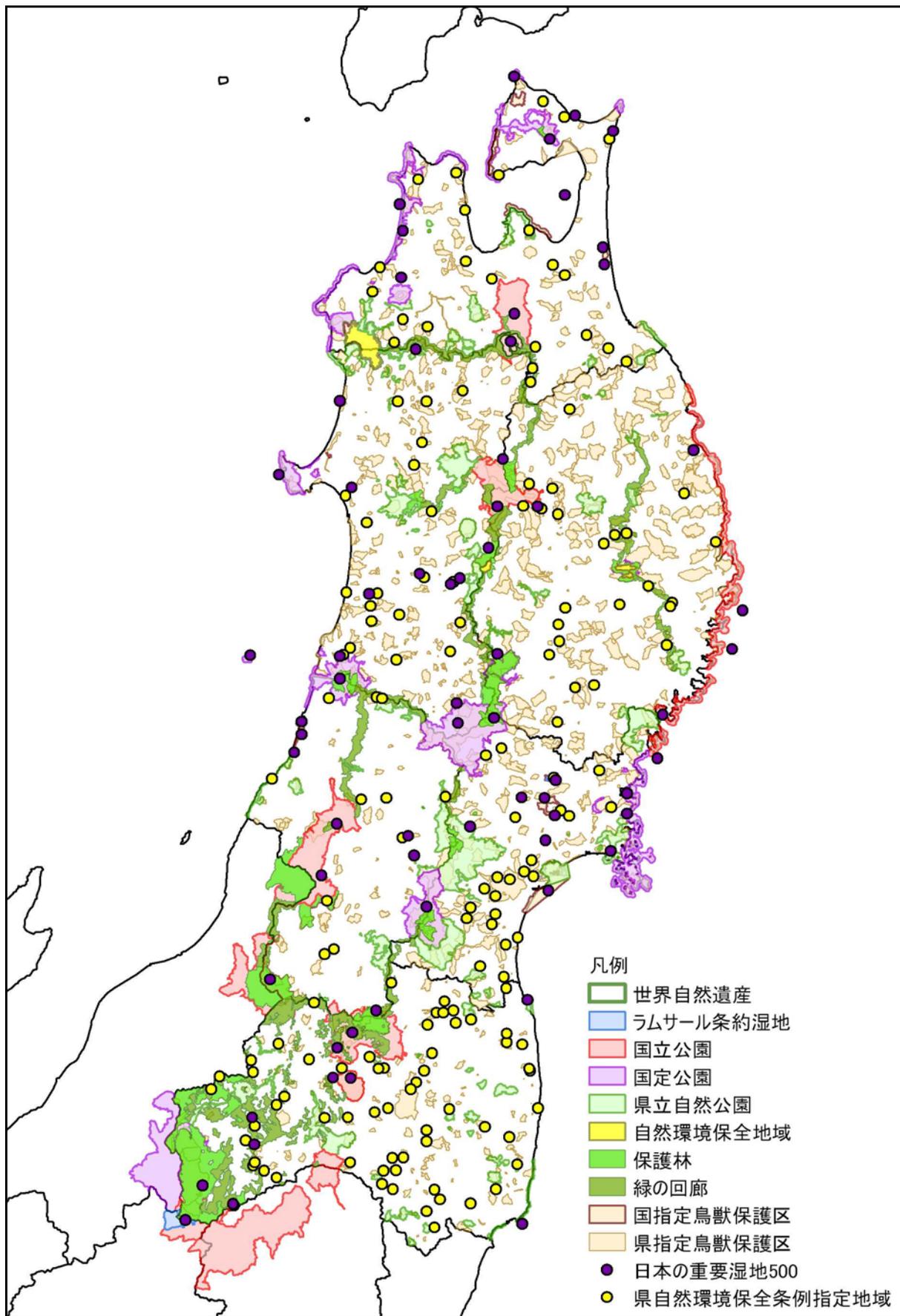


図 2-3(7) 重要地域位置図 (統合)

第3章 保全活動の情報収集及び整備

3.1 調査概要

本業務の実施にあたり、東北地方の保全活動の情報を把握し、生物多様性条約第10回締約国会議に情報提供するとともに今後の普及啓発に資するために、調査を実施した。

保全活動の情報収集及び整備における調査フローを図3-1に示す。

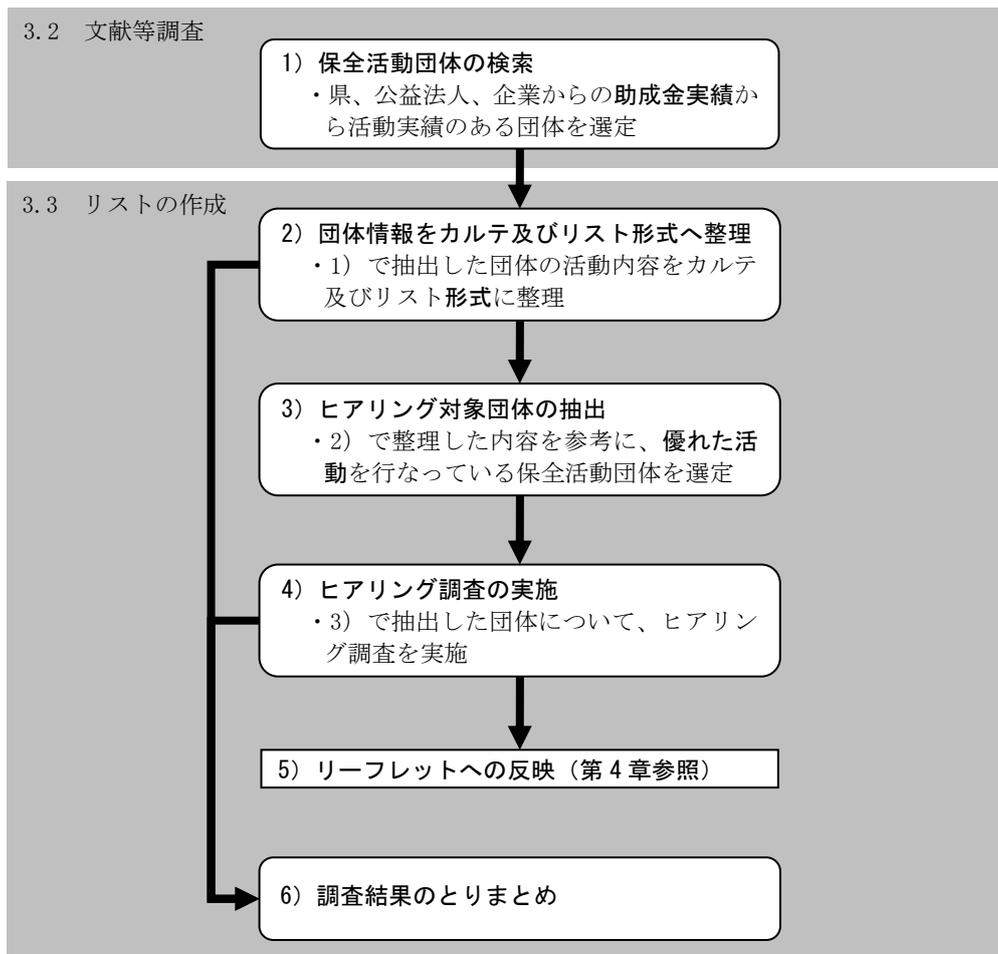


図3-1 保全活動の情報収集及び整備における調査フロー

3.2 文献等調査

3.2.1 調査方法

文献等調査は、県、公益法人、企業からの助成金実績から保全活動団体を検索し、活動実績のある団体を選定する方法で行った。

具体的には、表 3-1 に示す助成金団体のリストより、過去 5 年間（基本的に平成 16 年度から平成 21 年度）の助成金実績より、東北地方で活動しており、且つ活動内容が以下のキーワードに該当する団体を抽出した。

キーワード：生物多様性、自然環境保全、環境教育、里地里山、希少種、自然環境に関する文化の伝承

表 3-1 保全活動団体の検索に使用した助成金団体

No.	助成金団体
1	みやぎ NPO 夢ファンド（宮城県）
2	やまがた社会貢献基金
3	地球環境基金助成（独立行政法人）
4	日本経団連自然保護基金
5	プロナトゥーラファンド
6	WWF エコ・パートナーズ事業
7	自然保護ボランティアファンド（公園管理財団）
8	三井物産環境基金
9	イオン環境財団
10	TaKaRa ハーモニストファンド
11	セブンイレブンみどりの基金
12	Panasonic NPO サポートファンド
13	トヨタ自動車 環境活動助成プログラム
14	公益信託富士フィルム・グリーンファンド
15	日野自動車グリーンファンド 等
16	ナショナルトラスト活動助成制度
17	サントリー世界愛鳥基金
18	公益信託大成建設自然・歴史環境基金
19	公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金
20	公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金
21	公益信託乾太助記念動物科学研究助成基金
22	公益信託増進会自然環境保全研究活動助成基金
23	財団法人 こしじ水と緑の会
24	公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金
25	公益信託今井記念 尾瀬・日光自然保護基金

3.2.2 調査結果

文献等調査により抽出した活動団体数を表 3-2 に、活動団体一覧を資料 2-1 に示す。

助成金団体のリストより抽出した保全活動団体は、合計で 130 団体あった。しかし、活動団体の中には、過去 5 年間のうち連続的又は複数団体から助成を受けているケースがあることから、これらの重複した団体を整理した結果、合計数は 83 団体となった。

これら 83 団体に、岩手県の「久保川イーハトーブ自然再生協議会」及び福島県の「会津阿賀川流域ネットワーク」を加えた保全活動団体一覧を表 3-3 に示す。

表 3-2 助成金団体と抽出した保全活動団体数

No.	助成金団体	抽出した活動団体数
1	みやぎ NPO 夢ファンド (宮城県)	0
2	やまがた社会貢献基金	0
3	地球環境基金助成 (独立行政法人)	23
4	日本経団連自然保護基金	8
5	プロナトゥーラファンド	0
6	WWF エコ・パートナーズ事業	3
7	自然保護ボランティアファンド (公園管理財団)	5
8	三井物産環境基金	7
9	イオン環境財団	29
10	TaKaRa ハーモニストファンド	4
11	セブンイレブンみどりの基金	30
12	Panasonic NPO サポートファンド	1
13	トヨタ自動車 環境活動助成プログラム	1
14	公益信託富士フィルム・グリーンファンド	1
15	日野自動車グリーンファンド 等	3
16	ナショナルトラスト活動助成制度	0
17	サントリー世界愛鳥基金	8
18	公益信託大成建設自然・歴史環境基金	3
19	公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金	0
20	公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金	0
21	公益信託乾太助記念動物科学研究助成基金	2
22	公益信託増進会自然環境保全研究活動助成基金	1
23	財団法人 こしじ水と緑の会	0
24	公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金	1
25	公益信託今井記念 尾瀬・日光自然保護基金	0
	合計	130
	(重複した団体を整理すると 83)	

表 3-3 保全活動団体一覧

No.	県	団体名	No.	県	団体名
1	青森	白神自然学校一ツ森校	50	秋田	世界保護地域委員会日本委員会
2		おおせつからんど	51		白神ネイチャー協会
3		白神山地を守る会	52		秋田の里山を育てる会
4		ニホンザル・フィールドステーション	53		グループ「森」の会
5		赤石川を守る会	54		秋田パドラーズ
6		世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	55		きみまち塾
7		小川原湖自然楽校	56		大館自然の会
8		あおもりみなとクラブ	57		大湯の自然を愛する会
9		岩木山自然学校	58		地球環境教育指導協会
10		平内町白鳥を守る会	59		生態保全研究会
11		自然学校エコロジー	60		秋田駒ヶ岳自然環境保全協議会
12	岩手	八幡平の葛根田ブナ原生林を守る会	61	日本ツキノワグマ研究所	
13		岩手子ども環境研究所	62	山形	ネイチャーアカデミーもがみ
14		いわて森林再生研究会	63	白鷹ふる里体験塾	
15		(社) 東北地域環境計画研究所	64	猛禽類保護ネットワーク	
16		志波三山県立自然公園指定促進協議会	65	山形の野生動物を考える会	
17		胆沢ダム水資源のブナ原生林を守る会	66	森林環境保全ボランティア「蔵王 緑の騎士団」	
18		浅利裕伸(岩手大学大学院)	67	不伐の森に親しむ会	
19		渡部憲吾(岩手大学大学院)	68	庄内浜を考える会	
20		八幡平自然景観保護連絡会	69	甑山研究会	
21		久保川イーハトーブ自然再生研究所	70	角川里の自然環境学校	
22	宮城	環境保全米ネットワーク	71	林田光祐(山形大学農学部)	
23		仙台広域圏ESD・RCE運営委員会	72	中村夢奈(山形大学大学院)	
24		サイカチネイチャークラブ	73	共存の森ネットワーク	
25		仙台いぐね研究会	74	福島	博士山ブナ林を守る会
26		伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会	75	喜多方ホタル夢づくり会	
27		ふるさとせせらぎの会	76	只見川流域自然誌研究会	
28		森のなかま	77	東北森林認証制度普及会	
29		田んぼ	78	苧麻倶楽部	
30		シナイモツゴ郷の会	79	吾妻山自然倶楽部	
31		宮城教育大学(宮城県淡水魚類研究会)	80	西会津まちづくり応援隊	
32		宮城の自然を守る山楽ネットワーク協議会	81	A. R. S	
33		環境生態工学研究所	82	日本野鳥の会 郡山支部	
34		川崎町の資源をいかす会	83	会津阿賀川流域ネットワーク	
35		環境会議所東北	84	青森、岩手	森びとプロジェクト委員会
36		宮城県森林インストラクター協会	85	秋田、岩手	流域の水循環型社会をすすめる会
37		気仙沼大島観光協会		合計	85団体
38		水・環境ネット東北			
39		野生植物研究所			
40	広瀬川市民会議				
41	自然フィールドワーク研究会 YAMOI				
42	権現森自然研究会				
43	みやぎ里山整備クラブ				
44	日本雁を保護する会				
45	蕪栗ぬまっこくらぶ				
46	宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団				
47	船越小学校 愛鳥会				
48	日本国際湿地保全連合				
49	アジア田んぼの学校				

3.3 リストの作成

3.3.1 団体情報のカルテ及びリストへの整理

「3.2 文献等調査」で抽出した団体について、インターネット検索による情報収集を行い、団体情報の概要を記載したカルテ及びリストに整理した。

(1) 整理方法

カルテ整理は、各保全活動団体について団体ホームページ、助成団体の助成先情報、関連ホームページ等を検索し、図 3-2 に示す項目（「実施主体」、「対象地」、「主な活動」、「団体概要」、「活動概要」）で整理を行った。

実施主体	対象地	主な活動内容	No.
団体概要			
団体名			
代表者			
住所	〒		
電話		FAX	
ホームページ			
E-mail			
設立年月日			
設立経緯・目的			
活動概要			
対象種/対象地			
活動内容			
助成金、活動実績等			
研究者、行政及び他団体との連携			
活動状況 (ホームページ等)			

図 3-2 カルテ記載様式

「実施主体」、「対象地」、「主な活動内容」は、表 3-4 に示す区分で整理した。

「対象地」や「主な活動内容」など複数にまたがって活動している場合には、最大 3 区分までで選択した。

「主な活動内容」の「保全活動」、「復元活動」、「調査研究」についてはその活動の対象を「森林環境」、「河川環境」、「湖沼環境」、「里地里山環境」、「山岳環境」、「野生生物」、「自然環境」まで、「環境教育」については具体的な内容を「自然体験」、「普及啓発」、「人材育成」まで、把握できる範囲で整理した。

表 3-4 カルテ、リストの整理区分

項目	整理区分	
実施主体	①財団法人、②社団法人、③NPO 法人、④任意団体、⑤企業、⑥その他（不明含む）	
対象地	①森林環境、②河川環境、③湖沼環境、④海域環境、⑤里地里山環境（人里近くの森林や田んぼ、川など）、⑥山岳環境（高山地帯など）、⑦都市・郊外、⑧その他	
主な活動	①保全活動	1. 森林環境、2. 河川環境、3. 湖沼環境、4. 海域環境、
	②復元活動	5. 里地里山（人里近くの森林や田んぼ、川など）、
	③調査研究	6. 山岳環境（高山地帯など）、7. 野生生物、8. 自然環境
	④森林整備・管理	
	⑤環境保全型農業	
	⑥環境教育	1. 自然体験（農業体験や植林活動など短期的な体験）、2. 普及啓発（観察会やシンポジウム、機関誌の発行など）、3. 人材育成
	⑦文化継承	

リスト整理は、カルテ整理結果を基に「県」、「団体名」、「実施主体」、「対象地」、「主な活動内容」、「活動概要」、「情報源」より整理した。

(2) 整理結果

カルテの整理結果を資料 2-2 に、リストの整理結果を表 3-5 及び資料 2-3 に示す。

なお、表 3-6 に示す団体については、インターネット検索において情報が得られない等の理由によりカルテを作成しなかった。

表 3-6 カルテを作成しなかった団体とその理由

No.	県	団体名	カルテ作成を行わなかった理由
18	岩手	浅利裕伸(岩手大学大学院)	個人等による研究のため。
19		渡部憲吾(岩手大学大学院)	個人等による研究のため。
20		八幡平自然景観保護連絡会	インターネット検索の結果、団体関連HPが無く、団体・活動情報が得られなかった。
27	宮城	ふるさとせせらぎの会	インターネット検索の結果、団体関連HPが無く、団体・活動情報が得られなかった。
28		森のなかま	インターネット検索の結果、団体関連HPが無く、団体・活動情報が得られなかった。
47		船越小学校 愛鳥会	インターネット検索の結果、団体関連HPにおいて活動情報が得られなかった。
49		アジア田んぼの学校	インターネット検索の結果、団体関連HPが無く、団体・活動情報が得られなかった。
52	秋田	秋田の里山を育てる会	インターネット検索の結果、団体関連HPが無く、団体・活動情報が得られなかった。
59		生態保全研究会	インターネット検索の結果、団体関連HPが無く、団体・活動情報が得られなかった。
60		秋田駒ヶ岳自然環境保全協議会	インターネット検索の結果、団体関連HPが無く、団体・活動情報が得られなかった。
71	山形	林田光祐(山形大学農学部)	個人等による研究のため。
72		中村夢奈(山形大学大学院)	個人等による研究のため。
合計		12団体	

表 3-5 保全活動団体の情報リスト (1)

No.	県	団体名	実施主体	対象地	主な活動内容	活動概要	情報源
1	青森	白神自然学校一ツ森校	NPO法人	森林環境 河川環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (人材育成) 文化継承	自然体験活動や人材養成講座並びにガイドの養成講座の実施、マタギ文化の伝承	団体HP
2	青森	おおせつからんど	NPO法人	湖沼環境	保全活動 (野生生物) 保全活動 (湖沼環境) 環境教育 (普及啓発)	仏沼のオオセッカ(鳥)他、湿地の野生生物の保全	団体HP
3	青森	白神山地を守る会	NPO法人	森林環境	復元活動 (森林環境) 環境教育 (自然体験) 環境教育 (人材育成)	白神山地における広葉樹の植林事業	団体HP
4	青森	ニホンザル・フィールドステーション	NPO法人	森林環境	保全活動 (野生生物) 調査研究 (野生生物) 環境教育 (人材育成)	ニホンザルを中心とした野生動物の生態観察会	団体HP
5	青森	赤石川を守る会	その他	森林環境 河川環境	復元活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	赤石川を金鮎が泳ぐような清流に戻すために活動。赤石川ブナ林観察会や清掃活動、魚道や砂防堰堤の調査、水量回復の協議など	関連HP
6	青森	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	任意団体	森林環境	調査研究 (森林環境)	白神山地の核心地域で行っているブナ林のモニタリング	団体HP
7	青森	小川原湖自然楽校	その他	湖沼環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (人材育成)	小川原湖での自然体験を通しての環境教育	団体HP
8	青森	あおもりみなとクラブ	NPO法人	都市・郊外 海域環境	環境教育 (普及啓発)	アマモの役割と藻場について海から学ぶ環境保全学習活動	団体HP
9	青森	岩木山自然学校	NPO法人	森林環境 河川環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (人材育成)	ヨシ原と生物の調査、ヨシ船づくりなどを行う「岩木山子ども自然体験学習会」	団体HP
10	青森	平内町白鳥を守る会	その他	海域環境	保全活動 (野生生物)	「小湊のハクチョウ」の保護	サントリー世界愛鳥基金 東奥日報 毎日新聞など
11	青森	自然学校エコロジー	NPO法人	—	環境教育 (自然体験) 環境教育 (普及啓発)	青森県内の自然観察ツアー事業、学習活動事業、植林事業、ギャラリー開催事業等を実施、自然環境の保全と自然保護意識の向上に寄与	サントリー世界愛鳥基金 むつ市NPO法人一覧 青森県地域づくり団体一覧 など
12	岩手	八幡平の葛根田ブナ原生林を守る会	任意団体	森林環境	保全活動 (森林環境) 環境教育 (普及啓発)	ブナ原生林の保護運動	団体HP
13	岩手	岩手子ども環境研究所	NPO法人	里地里山環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (普及啓発) 文化継承	自然エネルギー、自然・農業体験、循環型社会等の環境教育。廃校跡を利用した自然エネルギー研修を受けられる施設づくり	団体HP
14	岩手	いわて森林再生研究会	NPO法人	森林環境	森林整備・管理 環境教育 (普及啓発)	森林再生・保全活動	団体HP
15	岩手	(社) 東北地域環境計画研究所	社団法人	森林環境	復元活動 (森林環境) 保全活動 (野生生物) 環境教育 (人材育成)	松尾鉱山跡地で森の再生活動(郷土種で植樹活動)共済機関:いわてNPOセンター	団体HP
16	岩手	志波三山県立自然公園指定促進協議会	その他	森林環境	保全活動 (森林環境)	盗掘、不法投棄防止などの啓発、環境美化活動、故郷の自然や文化遺産の保護活動	セブンイレブンみどりの基金 など
17	岩手	胆沢ダム水資源のブナ原生林を守る会	その他	森林環境	保全活動 (森林環境) 保全活動 (野生生物)	胆沢川源流部のごみ拾いおよび岩手・宮城内陸地震で転落し、スクラップ化したバスの撤去	いわて森・川・海活動事例集 など
18	岩手	浅利裕伸(岩手大学大学院)	大学	森林環境	保全活動 (野生生物)	生息環境の異なるエゾモモンガの生態的研究	岩手大学HP、公益信託乾太助(いぬいたすけ)記念動物科学研究助成基金
19	岩手	渡部憲吾(岩手大学大学院)	大学	里地里山環境	保全活動 (野生生物)	水田地帯に生息するメダカの生息環境の違いが成長へ与える影響について	公益信託乾太助(いぬいたすけ)記念動物科学研究助成基金
20	岩手	八幡平自然景観保護連絡会	その他	—	—	—	—
21	岩手	久保川イートップ自然再生協議会	任意団体	里地里山環境	復元活動 (自然環境) 調査研究 (自然環境) 森林整備・管理	久保川流域(羽根橋上流域)の自然環境の調査研究、生物多様性に満ちた自然の保全再生	団体HP
22	宮城	環境保全米ネットワーク	NPO法人	里地里山環境	環境保全型農業 環境教育 (普及啓発)	農地の環境・生態系の保全・向上	団体HP
23	宮城	仙台広域圏ESD・RCE運営委員会	任意団体	—	環境教育 (普及啓発)	仙台広域圏で自然との共生と循環型社会の実現のための教育を推進	団体HP
24	宮城	サイカチネイチャークラブ	NPO法人	湖沼環境	環境教育 (普及啓発) 環境教育 (自然体験)	仙台市内のサイカチ沼及び周辺の自然環境保護、定点観察、普及活動等	団体HP
25	宮城	仙台いぐね研究会	任意団体	里地里山環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (普及啓発) 文化継承	仙台平野に広がるいぐね(屋敷林)を活用した環境教育・学習プログラムの企画と実践	ジャパン・フォー・サステナビリティHP、損保ジャパン環境財団HPなど
26	宮城	伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会	その他	里地里山環境	保全活動 (野生生物) 環境保全型農業 環境教育 (自然体験)	伊豆沼・内沼周辺における小規模水田魚道の遡上実験など「田んぼの学校」「ナマズのがっこう」	イオン環境財団HP、セブンイレブンの基金、コリ緑資金HPなど
27	宮城	ふるさとせせらぎの会	その他	—	—	草花残渣をEM処理し、環境に配慮した循環型栽培で花を育て、自然環境を豊かにする。角田市内の道路や手代木沼、阿武隈川の清掃活動	イオン環境財団HP、セブンイレブンの基金、コリ緑資金HPなど
28	宮城	森のなかま	その他	—	—	—	—
29	宮城	田んぼ	NPO法人	里地里山環境	環境保全型農業 環境教育 (普及啓発)	北部仙台平野の田んぼを拠点として、全国のふゆみずたんぼや生物多様性を生かした農業の普及と、豊かな農村地域の再生活動を実施	団体HP
30	宮城	シナイモツゴ郷の会	NPO法人	湖沼環境	保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	だれでもできる外来魚繁殖阻止と在来魚復元技術開発による田園地帯の自然再生 里親制度によるシナイモツゴ生息地の拡大	団体HP
31	宮城	宮城教育大学(宮城県淡水魚類研究会)	大学	河川環境	調査研究 (野生生物)	東北地方の希少サケ類サクラマス等の保全を推進する教育的アプローチの検討	団体HP
32	宮城	宮城の自然を守る山楽ネットワーク協議会	任意団体	山岳環境	保全活動 (山岳環境) 環境教育 (普及啓発)	宮城県内山岳地域の中で特に国立・国定公園において、自然保護・保全・啓発活動、自然観察会、講習会、学習会、会報の発行などを実施	団体HP
33	宮城	環境生態工学研究所	NPO法人	森林環境 湖沼環境	復元活動 (森林環境) 保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	水産廃棄物を活用した旧松尾鉱山荒廃地の植栽活動 伊豆沼におけるオオクチバス対策	団体HP
34	宮城	川崎町の資源をいかす会	NPO法人	里地里山環境	森林整備・管理 環境教育 (普及啓発)	川崎町の豊かな資源・恵みをいかして、地域資源循環型社会の構築に寄与する。	団体HP
35	宮城	環境会議所東北	NPO法人	—	環境教育 (普及啓発)	「エコプロダクツ東北」関連イベントの開催、生物多様性に関するセミナーの開催	団体HP
36	宮城	宮城県森林インストラクター協会	NPO法人	森林環境	森林整備・管理 環境教育 (普及啓発) 環境教育 (人材育成)	森林インストラクターによる森林保全、自然活動など	団体HP
37	宮城	気仙沼大島観光協会	企業	海域環境	環境教育 (自然体験) 文化継承	小田の浜海水浴場「アクア・ピュア大作戦」(「簡易濾過装置」を手づくりした排水浄化の実験)	団体HP
38	宮城	水・環境ネットワーク東北	NPO法人	河川環境	環境教育 (普及啓発) 環境教育 (人材育成)	北上川流域で水環境の保全活動などを行っている人が集い、発表・ワークショップを行う	団体HP
39	宮城	野生植物研究所	任意団体	—	調査研究 (野生生物) 環境教育 (自然体験)	野生植物の植生・植相の実態を解明していくと共に、さまざまな社会活動を通じて、地域の自然の素晴らしさや大切さを伝えていく	団体HP
40	宮城	広瀬川市民会議	任意団体	河川環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (普及啓発)	「広瀬川」に関わる市民団体・行政・学識経験者が、循環型社会での河川の役割を協議活動	団体HP
41	宮城	自然フィールドワーク研究会 YAMOI	任意団体	—	環境教育	地元住民と行う絶滅が危惧される淡水生物の保全	団体HP
42	宮城	権現森自然研究会	任意団体	里地里山環境	環境教育 (普及啓発) 環境教育 (自然体験)	権現森を自ら楽しむと同時に、市民の憩いの場として楽しんでいただける場とするため、遊歩道整備、自然観察会などを開催	団体HP
43	宮城	みやぎ里山整備クラブ	任意団体	里地里山環境	森林整備・管理 環境教育 (普及啓発)	長期間放置されている里山林(ヒノキ林・雑木林)を手入れし、元気な森に蘇らせることを目指す	団体HP
44	宮城	日本雁を保護する会	任意団体	湖沼環境 里地里山環境	保全活動 (野生生物) 調査研究 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	ガンガモ類の保全活動、シジュウカラガン及びハクガンの繁殖地復元活動、冬みず田んぼの実施	団体HP

表 3-5 保全活動団体の情報リスト (2)

No.	県	団体名	実施主体	対象地	主な活動内容	活動概要	情報源
45	宮城	蕪栗ぬまっくらぶ	NPO法人	湖沼環境 里地里山環境	保全活動 (湖沼環境) 保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	蕪栗沼の自然環境及び動植物の保全活動、環境教育の他、農業と治水と野生生物の共生を模索するなどの活動を実施	団体HP
46	宮城	宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	財団法人	湖沼環境	保全活動 (湖沼環境) 保全活動 (野生生物) 環境教育 (自然体験)	伊豆沼・内沼の環境保全、鳥類保護、自然教育活動	団体HP
47	宮城	船越小学校 愛鳥会	その他	—	—	船越の宝物—野鳥編—	—
48	宮城	日本国際湿地保全連合	NPO法人	湖沼環境 海域環境	調査研究 (自然環境) 環境教育 (普及啓発)	重要な湿地及び湿地における生物多様性の調査研究、ならびに湿地保全の普及啓発	団体HP
49	宮城	アジア田んぼの学校	その他	—	—	田んぼでの環境教育及び開発のための国内外研究者の交流を推進。宮城県では冬水田んぼの研究実践活動を実施	—
50	秋田	世界保護地域委員会日本委員会	任意団体	—	環境教育 (普及啓発)	IUCNの使命を達成するため、世界的な代表的な陸上及び海上の保護地域のネットワークを確立し、効果的な管理を促進	団体HP
51	秋田	白神ネイチャー協会	NPO法人	森林環境	復元活動 (森林環境) 環境教育 (普及啓発)	「白神・山の森・海の森、二つ森づくり」真瀬沢の造林地にブナの森づくり	団体HP
52	秋田	秋田の里山を育てる会	その他	—	—	—	—
53	秋田	グループ「森」の会	任意団体	都市・郊外	復元活動 (自然環境)	将来子供たちに自然に触れる楽しさを知ってもらうため、秋田市内の公園や学校に宮脇方式による植樹を実施	団体HP
54	秋田	秋田パドラーズ	NPO法人	河川環境	環境教育 (普及啓発) 環境教育 (自然体験)	雄物川流域一斉クリーンアップと回収した飲料用容器類のメーカー別分類活動	団体HP
55	秋田	きみまち塾	任意団体	里地里山環境	環境教育 (自然体験) 文化継承	町内外の多くの人々と体験・理解し、人・もの・情報などの資源が循環する社会を推進する住民自治組織の形成	団体HP
56	秋田	大館自然の会	任意団体	里地里山環境	復元活動 (森林環境) 保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	地域の自然環境の保存、保全、復元に関する活動を多数の市民とともに実施	団体HP
57	秋田	大潟の自然を愛する会	任意団体	湖沼環境	環境教育 (普及啓発) 保全活動 (野生生物)	八郎潟干拓地の野鳥に対する放棄釣具の影響調査と釣り人への啓発	団体HP
58	秋田	地球環境教育指導協会	NPO法人	海域環境	環境教育 (普及啓発) 保全活動 (野生生物)	北限のサンゴ「イノバナ」を秋田県海洋環境における財産として県民に訴え、保護活動を理解してもらうための生態調査と啓蒙活動	秋田市民活動情報ネットより
59	秋田	生態保全研究会	その他	—	—	ツキノワグマの生息環境の保護と栄養摂取の解明、秋田県にてグマの飼養試験	WWFエコ・パートナーズ事業より
60	秋田	秋田駒ヶ岳自然環境保全協議会	その他	—	—	—	—
61	秋田	日本ツキノワグマ研究所 (東北支社)	NPO法人	森林環境 里地里山環境	保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	ドングリの不作とツキノワグマの出産の相関関係の研究(冬季の東北地方(秋田、岩手県)の山岳地帯)	団体HP
62	山形	ネイチャーアカデミーもがみ	NPO法人	里地里山環境	保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	最上地域の自然環境の調査・研究、普及活動、希少種の保全活動	団体HP
63	山形	白鷹ふる里体験塾	任意団体	里地里山環境	環境教育 (自然体験) 文化継承	里山や水辺の自然環境の保全・整備、伝統的な文化や技能を継承	団体HP
64	山形	猛禽類調査会 [現猛禽類保護ネットワーク]	NPO法人	森林環境 里地里山環境	調査研究 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	環境省・猛禽類保護センターを支援しつつ、希少猛禽類の生息分布や生態などの調査研究、一般に対する普及啓発を実施	団体HP
65	山形	山形の野生動物を考える会	任意団体	森林環境 里地里山環境	環境教育 (普及啓発)	周囲の自然に生息する野生哺乳類(カモシカやタヌキなど)の観察会を実施、報告を含んだ機関誌を発行	日本全国動物関連サイトリンク集HPより
66	山形	森林環境保全ボランティア「蔵王 緑の騎士団」	任意団体	森林環境	森林整備・管理 環境教育 (自然体験)	蔵王地区における森林環境の保全と子供たちへの環境教育及び森林とのふれあいの推進	団体HP
67	山形	不伐の森に親しむ会	任意団体	森林環境	環境教育 (自然体験) 森林整備・管理	「不伐の森」の巨木の森に向けた環境保全作業と、大石沼の湿地化防止活動	山形県内の環境保全団体一覧HP、セブンイレブンみどりの基金HP、交流移住のスズメ全国田舎暮らしガイドHPより
68	山形	庄内浜を考える会	NPO法人	海域環境	復元活動 (海域環境) 環境教育 (自然体験)	アマモを移植する事で、以前の生態系を取り戻す活動	団体HP
69	山形	甌山探究会	任意団体	森林環境 里地里山環境	森林整備・管理 環境教育 (自然体験) 文化継承	郷土で森林整備事業及び地域活動を積極的に、体験活動を通して地域の環境教育等のサポーターとして実践活動	やまがた社会貢献基金HP、山形県内の環境保全団体一覧HPなどより
70	山形	角川里の自然環境学校	任意団体	里地里山環境	文化継承 環境教育 (自然体験)	山、川、食、農、ものづくり、民話など多彩なプログラムを実施、継続的な自然・文化体験学習活動を展開	団体HP
71	山形	林田光祐 (山形大学農学部)	大学	都市・郊外	環境教育	環境教育機能を備えた学校林の生態管理システムの構築	山形大学HPより
72	山形	中村夢奈 (山形大学大学院)	大学	山岳環境 森林環境	調査研究 (野生生物)	豪雪地帯のニホンヤマネの好適な生息環境の解明	—
73	山形	共存の森ネットワーク	NPO法人	里地里山環境	文化継承 環境教育 (自然体験) 森林整備・管理	山形県中津川「森の聞き書き甲子園」森の知恵と技術のデータベース構築による組織基盤強化	団体HP
74	福島	博士山ブナ林を守る会	任意団体	森林環境 里地里山環境	保全活動 (森林環境) 保全活動 (野生生物)	会津博士山と南会津のブナ林やミズナラの広葉樹林帯の保全と、その生態系を代表するイヌワシやクマタカなどの調査、保護活動を実施	森ナビゲーションHP、セブンイレブンみどりの基金HP
75	福島	喜多方ホテル夢づくり会	任意団体	河川環境	保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	ホテルの学校/水循環・水文化再生の市民運動(湧水(湧水)再生によるまちづくり)	関連HP
76	福島	三島町「只見川流域自然誌研究会」	任意団体	森林環境 里地里山環境	保全活動 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	只見川流域に生息する蝶「キマダラリッパメ」の生息地調査を通して自然環境に対する	公益信託ふるさと自然環境基金 HPなどより
77	福島	東北森林認証制度普及会	その他	森林環境	森林整備・管理 環境教育 (普及啓発)	東北地域における責任ある林産物調達の実施	関連HP
78	福島	芋麻倶楽部	NPO法人	里地里山環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (普及啓発)	都市部と里山を結ぶ、間伐作業や交流活動	団体HP
79	福島	吾妻山自然倶楽部	その他	森林環境	復元活動 (森林環境)	荒地地帯の防食、周辺から採取した種子播種等を実施	セブンイレブンみどりの基金より
80	福島	西会津まちづくり応援隊	NPO法人	里地里山環境	環境教育 (自然体験)	荒廃した畑地・林地を整備し、子どもたちに植林・自然との係りについて体験学習を行う	団体HP
81	福島	A. R. S	NPO法人	里地里山環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (人材育成)	会津高原周辺地区における環境レクチャー、山岳ガイド養成・派遣等による環境啓発活動	団体HP
82	福島	日本野鳥の会 郡山支部	財団法人	—	調査研究 (野生生物) 環境教育 (普及啓発)	定例探鳥会、市民探鳥会ほか、市民参加のカッコウ調査、レッドデータブック作成の協力、会報の発行、学校等への各種行事への講師派遣	団体HP
83	福島	会津阿賀川流域ネットワーク	NPO法人	河川環境	環境教育 (自然体験) 環境教育 (人材育成) 環境教育 (普及啓発)	会津めだか塾の実施、川の指導者としてインストラクター養成講座、総合的な学習支援の実施	団体HP
84	青森、岩手	森びとプロジェクト委員会 みちのく事務所	NPO法人	森林環境	復元活動 (森林環境) 環境教育 (普及啓発)	栃木県、青森県、岩手県/ドングリを拾って育てた苗で森づくり。横浜国立大学名誉教授で植物生態学者・宮脇氏が指導	団体HP
85	秋田、岩手	流域の水循環型社会をすすめる会	任意団体	河川環境 湖沼環境	環境教育 (普及啓発)	山国日本の新しい森林管理システム化(秋田県・岩手県・島根県・宮崎県・新潟県・滋賀県下の河川流域・沿岸・湖沼と周辺地域)	地球環境基金HPより
合計		85団体					

3.3.2 ヒアリング対象団体の抽出

「3.3.1 団体情報のカルテ及びリストへの整理」の団体情報を参考に、ヒアリング対象団体を選定した。

ヒアリング対象団体は、リーフレットの作成（第4章）の候補とすることから、①各県から2団体以上、且つ②対象地/対象種が分かれている、③活動内容にアピール性がある団体を選出した。

選出したヒアリング対象団体及びその対象地/対象種（森林、海域、文化、植物、哺乳類、両生類、爬虫類、昆虫類、鳥類、魚類）、選定理由（アピールポイント）を表3-6に示す。

3.3.3 ヒアリング調査の実施

(1) 調査方法

「3.3.2 ヒアリング対象団体」で選出した団体について、ヒアリング調査を実施した。

ヒアリングは、図3-3に示す項目において電話での聞き取り又はメールによるヒアリング記載様式への記入依頼による方法で行った。

1.NPO等実施主体対象ヒアリング項目

1) 実施主体の概要	
団体名	
(英語表記)	
代表者	
住所	〒
電話	FAX
HP	
E-mail	
設立年月日	
設立経緯・目的	
2) 活動概要	
①主な活動内容	
②活動事例 (アピールしたい事例)	
②主な活動内容	
③対象種	
④実施目的 (なぜ活動を始めたか)	
⑤実施場所 (県・市町村・具体的な場所)	
⑥実施時期 (〇年〇月～)	
⑦費用	かかった費用
	費用の調達方法
⑧実施体制	
⑨人員確保	人員確保の方法
	周知 (募集の方法)

⑩実施対策の内容	保全方法	
	アピールポイント (技術等)	
⑪活動結果	保全活動後の状況	
	モニタリング状況	
	保全個体数の増減	
⑫課題及び苦労した点		
⑬本事例における学識 経験者、行政及び 他団体との連携		

【確認事項】（ヒアリング中かヒアリング終了時に確認してください。）

項目	チェック欄
①情報公開の可否（リーフレット掲載への承諾）を確認してください。	
②以下の資料をご提供頂けるか確認してください。	
・活動状況のわかるパンフレット又は報告書	
・対象地風景の写真	
・対象種/活動場所の写真	
・活動風景の写真	

図3-3 ヒアリング記載様式

表 3-6 ヒアリング対象団体及びその活動の対象、選定理由（アピールポイント）一覧

No.	活動団体	活動地域		主な活動内容	リーフレット でのテーマ	リーフレット での紹介事例 (案)	活動の対象										選定理由 (アピールポイント)	
		県	地域				森林	海域	文化	植物	哺乳類	両生類	爬虫類	昆虫類	鳥類	魚類		
1	白神自然学校一ツ森校	青森県	白神山地	自然体験活動や人材養成講座並びにガイドの養成講座の実施、マタギ文化の伝承	森林環境の保全	自然体験文化継承	○		○									・世界遺産の白神山地において、自然環境教育及びマタギ文化の継承活動を行なっているため
2	白神山地を守る会			白神山地における広葉樹の植林事業	森林環境の保全	ブナの植林	○											
3	(社) 東北地域環境計画研究所	岩手県	松尾鉱山	松尾鉱山跡地で森の再生活動（郷土種で植樹活動）	森林環境の保全	森林再生	○											・荒廃した松尾鉱山跡地において、郷土種による森の再生活動を行っている
4	久保川イーハトーブ自然再生研究所		久保川流域	久保川流域（羽根橋上流域）の自然環境の調査研究、生物多様性に満ちた自然の保全再生	里地里山環境の保全	森林整備・管理	○			○							○	・久保川流域において、河川やため池、水田、森林等の環境の保全活動を総合的に行なっているため
5	田んぼ	宮城県	北部仙台平野の田んぼ	北部仙台平野の田んぼを拠点として、全国のふゆみずたんぼや生物多様性を生かした農業の普及と、豊かな農村地域の再生	里地里山環境の保全	冬みずたんぼ				○								・本団体は、ふゆみずたんぼの取り組みを全国に定着させた実績があり、また、人と生物多様性の共生に関する活動を行っているため
6	日本雁を保護する会		蕪栗沼	ガンガモ類の保全活動、シジュウカラガシ及びハクガシの繁殖地復元活動、冬みずたんぼの実	里地里山、湖沼環境の保全	冬みずたんぼ				○								・本団体は、ふゆみずたんぼの取り組みを全国に定着させた実績があり、また、ガンガモ類の保全をため
7	蕪栗ぬまっこくらぶ		蕪栗沼	蕪栗沼の自然環境及び動植物の保全活動、環境教育の他、農業と治水と野生生物の共生を模索するなどの活動を実施	里地里山、湖沼環境の保全	野生生物との共生				○								・ラムサール条約登録湿地の「蕪栗沼と周辺水田」において、蕪栗沼の保全を行うと共に野生生物と共生する活動を行っているため
8	宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団		伊豆沼	伊豆沼・内沼の環境保全、鳥類保護、自然教育活動	湖沼環境の保全	マコモの移植				○								
9	白神ネイチャー協会	秋田県	白神山地	「白神・山の森・海の森、二つ森づくり」真瀬沢の造林地にブナの森づくり	森林環境の保全	ブナの植林	○											・世界遺産の白神山地において、ブナ林の保全・再生活動と共に海の森のモニタリングを行なっているため
10	地球環境教育指導協会		戸賀加茂沖	北限のサンゴ「イソバナ」を秋田県海洋環境における財産として県民に訴え、保護活動を理解してもらうための生態調査と啓	海域環境の保全	イソバナの生態調査			○									・イソバナの生態調査など保護活動を行うと共に、普及啓発活動を積極的にしているため
11	猛禽類保護ネットワーク	山形県	東北地方	環境省・猛禽類保護センターを支援しつつ、希少猛禽類の生息分布や生態などの調査研究、一般に対する普及啓発を実施	希少種の保全	希少猛禽類の保護												・希少猛禽類のイヌワシ、クマタカの生息調査をはじめ、餌場の創出など保全活動を積極的にしているため
12	庄内浜を考える会		庄内浜	アマモを移植する事で、以前の生態系を取り戻す活動	海域環境の保全	アマモの移植			○									・開発により消失するアマモ場を代替地へ移植し、アマモ場の生態系を創出する活動を行っているため
13	博士山ブナ林を守る会	福島県	博士山	ブナ林やミズナラの広葉樹林帯の保全と、その生態系を代表するイヌワシやクマタカなどの調査、保護活動を実施	希少種の保全	希少猛禽類の保護	○											・博士山の森林を保全すると共に、希少猛禽類のイヌワシ、クマタカの保護活動を行なっているため
14	只見川流域自然誌研究会		只見川	只見川流域に生息する蝶「キマダラルリツバメ」の生息地調査を通して自然環境に対する地域住民の意識向上のための情報発信	希少種の保全	キマダラルリツバメの保護												・希少な昆虫類であるキマダラルリツバメの調査及び普及啓発活動を行なっているため
15	会津阿賀川流域ネットワーク		会津阿賀川流域	会津めだか塾の実施、川の指導者としてインストラクター養成講座、総合的な学習支援の実施	希少種の保全	希少魚類の保護												
◎の合計							6	2	3	3	0	1	0	1	6	4		

(2) 調査結果

ヒアリング対象団体の全 15 団体中、10 団体 (No. 1、2、4、6、8、9、10、11、12、14) で回答を得られた。

また、No. 15 の団体については、ヒアリングの際、現在活動は行っていないとの回答を得た。

ヒアリング調査結果を資料 2-4 に示す。

3.3.4 調査結果のとりまとめ

(1) 全団体情報のとりまとめ

1) 実施主体

抽出した全 85 の保全活動団体について、実施主体の内訳を図 3-4 に示す。

最も多かったのは NPO 法人で約 39% を占めた。続いて、任意団体の 32%、大学 6% が多かった。インターネットによる検索のため、情報不十分で実施主体が不明な団体が 19% であった。

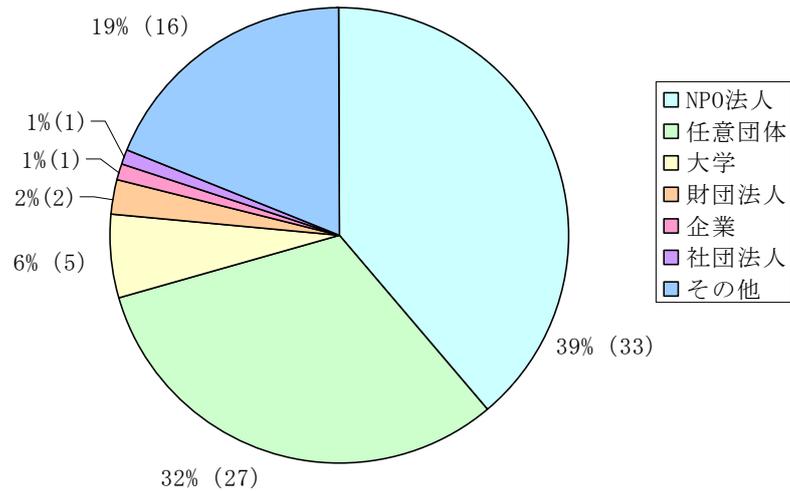
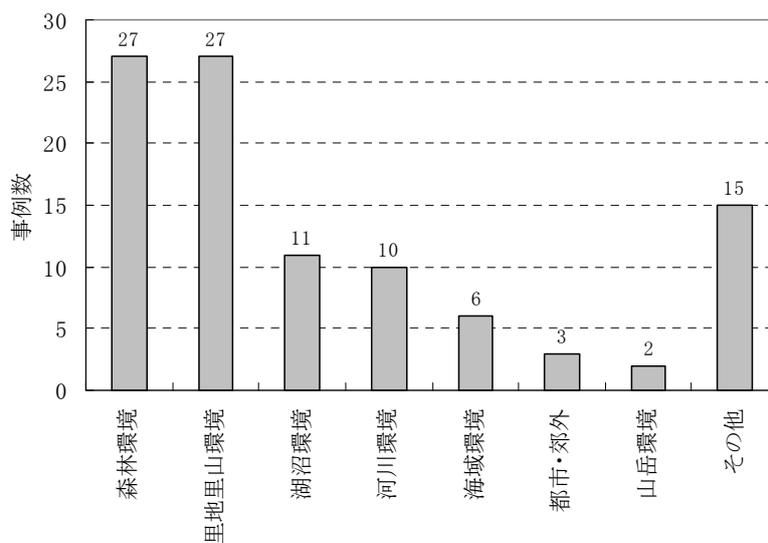


図 3-4 抽出した保全活動団体の実施主体の内訳

2) 対象地

抽出した全 85 の保全活動団体について、対象地の内訳を図 3-5 に示す。

最も多かった対象地は、原生林や人工林などの森林環境、及び人里近くの森林や田んぼなど里地里山環境で 27 件あった。続いて、湖沼環境の 11 件、河川環境の 10 件、海域環境の 6 件が多かった。環境教育や植物全般など特に対象地を設けていない団体（その他に



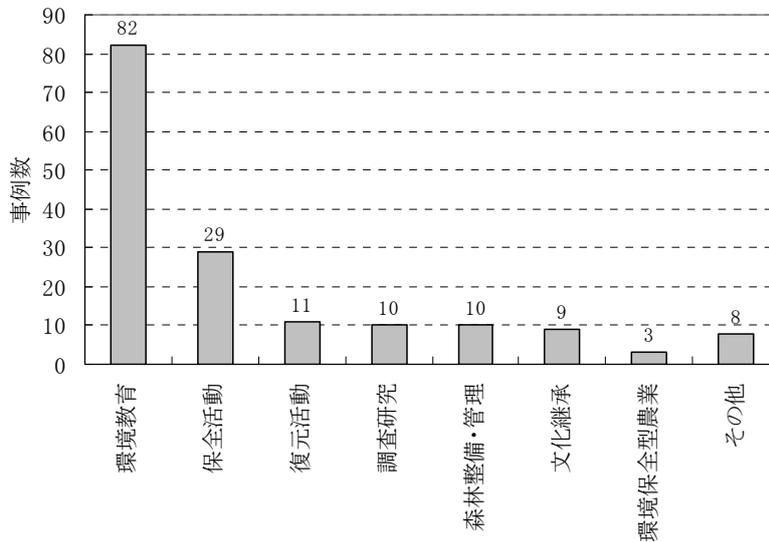
注) 対象地が複数にまたがる場合は、それぞれの対象地を集計した。

図 3-5 抽出した保全活動団体の実施主体の内訳

3) 主な活動内容

抽出した全 85 の保全活動団体について、主な活動内容の内訳を図 3-6 に示す。

最も多かった活動は、環境教育で 27 件あった。続いて、保全活動の 29 件、復元活動の 11 件、調査研究及び森林整備・管理の 10 件が多かった。その他に、伝統文化や農業などを伝える文化継承活動が 9 件、ふゆみずたんぼなどの環境保全型農業が 3 件あった。



注) 活動が複数にまたがる場合は、それぞれの活動を集計した。

図 3-6 抽出した保全活動団体の実施主体の内訳

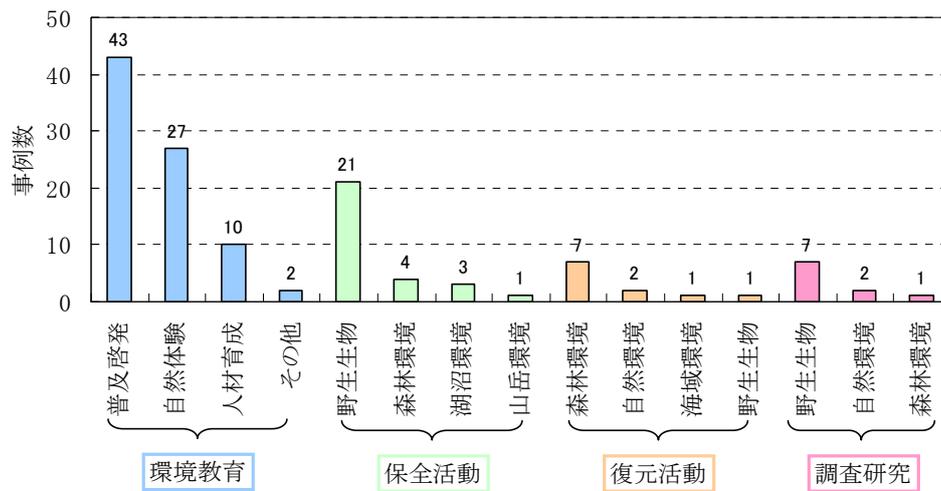
環境教育、保全活動、復元活動、調査研究の具体的な内訳を図 3-7 に示す。

環境教育は、自然観察や講習会、機関誌等の発行など普及啓発に関する活動が 43 件で最も多く、続いて、森づくりや川遊び、農業体験などの自然体験が 27 件、環境教育の指導者等の人材育成が 10 件となった。

保全活動は、ガンカモ類や希少猛禽類、希少昆虫など野生生物の保全活動が 21 件で最も多く、続いて、原生林など森林環境の保全活動が 4 件、湿地などの湖沼環境が 3 件あった。

復元活動は、植林などによる森林環境の復元が 7 件と最も多かった。

調査研究は、大学機関が多く、希少動植物の生息地等の研究などが 7 件と最も多かった。



注) 活動が複数にまたがる場合は、それぞれの活動を集計した。

図 3-7 抽出した保全活動団体の実施主体の内訳

(2) ヒアリング対象団体情報のとりまとめ

1) リーフレット掲載団体の選定

回答を得られた 10 団体について、リーフレット掲載に関する「リーフレットでのテーマ」、「主な活動内容」、「活動の内容（アピールポイント）」、「活動結果」を表 3-7 に示す。

リーフレットでは 4 ページ分、活動団体の取り組みを掲載することができるため、各ページでテーマを決め、2 団体ずつ選定することとした。

テーマは、「森林環境の保全」、「里地里山環境の保全」、「湖沼・海域環境の保全」、「希少種の保全」とした。

「森林環境の保全」に関する青森県の No. 1、No. 2、秋田県の No. 9 の団体は、マタギによるガイドと自然体験、文化継承を行っている No. 1 の団体及び秋田でブナの植林を行っている No. 9 の団体を選定した。

「里地里山環境の保全」は、森林整備・管理を行っている岩手県の No. 4 及びふゆみずたんぼを行っている宮城県の No. 6 を選定した。

「湖沼環境・海域環境の保全」は、マコモの移植を行っている宮城県の No. 8 及びアマモの移植を行っている No. 12 を選定した。

「希少種の保全」は、猛禽類の保護を行っている山形の No. 11 とキマダラルリツバメの保護を行っている福島 No. 14 を選定した。

表 3-7 ヒアリング団体の選定

No.	活動団体	活動地域		主な活動内容	リーフレットでのテーマ	リーフレットでの紹介事例(案)	活動の内容 (アピールポイント)	活動結果
		県	地域					
1	白神自然学校一ツ森校	青森県	白神山地	自然体験活動や人材養成講座並びにガイドの養成講座の実施、マタギ文化の伝承	森林環境の保全	自然体験文化継承	自然との共生を知っているマタギによるガイド、自然体験	地域に根付いた活動、リピーターの増加、都市の子供へのプログラム実施
2	白神山地を守る会			白神山地における広葉樹の植林事業	森林環境の保全	ブナの植林	ブナの種を拾うことから森の復元まで、徐伐、間伐で発生した木材をペレット等燃料として活用	植樹面積は1277ha、ブナの成長を記録
4	久保川イーハトーブ自然再生研究所	岩手県	久保川流域	久保川流域(羽根橋上流域)の自然環境の調査研究、生物多様性に満ちた自然の保全再生	里地・里山環境の保全	森林整備・管理	自然観察林のためのふつとパス整備、シードバンク	サクラソウが増加、フシグロセンノウが生育維持
6	日本雁を保護する会	宮城県	蕪栗沼	ガンガモ類の保全活動、シジュウカラガン及びハクガンの繁殖地復元活動、冬みずたんぼの実施	里地・里山、湖沼環境の保全	冬みずたんぼ	ガン類の渡りの経路上にふゆみずたんぼを一定間隔で配置	ふるみずたんぼでの生物多様性の向上
8	宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団		伊豆沼	伊豆沼・内沼の環境保全、鳥類保護、自然教育活動	湖沼環境の保全	マコモの移植	ハクチョウの食圧を受けにくいマコモの植生、ヨシ・ハスの刈り取り、外来種駆除	沈水植物でわずかに復元、魚類・貝類では個体数が増加
9	白神ネイチャー協会	秋田県	白神山地	「白神・山の森・海の森、二つ森づくり」真瀬沢の造林地にブナの森づくり	森林環境の保全	ブナの植林	根を痛めない育苗の開発、海域の保全と映像の記録	6haで植栽、生育状況と海域のモニタリングを継続
10	地球環境教育指導協会		戸賀加茂沖	北限のサンゴ「イソバナ」を秋田県海洋環境における財産として県民に訴え、保護活動を理解してもらうための生態調査と啓蒙活動	海域環境の保全	イソバナの生態調査	ダイビングスキルを使ったイソバナの生態の撮影	イソバナの群落が回復傾向
11	猛禽類保護ネットワーク	山形県	東北地方	環境省・猛禽類保護センターを支援しつつ、希少猛禽類の生息分布や生態などの調査研究、一般に対する普及啓発を実施	猛禽類保護	希少猛禽類の保護	列状間伐を用いたイヌワシの餌場の創出	列状間伐後のモニタリングより、草地環境の維持が重要と認識
12	庄内浜を考える会		庄内浜	アマモを移植する事で、以前の生態系を取り戻す活動	海域環境の保全	アマモの移植	東北地方日本海側でのアマモの移植、移植適地の検討	200~300株程度移植、スゲアマモの生育が確認
14	只見川流域自然誌研究会	福島県	只見川	只見川流域に生息する蝶「キマダラルリツバメ」の生息地調査を通して自然環境に対する地域住民の意識向上のための情報発信	希少種の保全	キマダラルリツバメの保護	キマダラルリツバメ保全のため、キリ林を保存・補植、分布調査とパトロール	—

注) 表中の「—」は特に回答を得られなかったことを示す。

2) ヒアリング団体の経営、課題点、連携等について

回答を得られた 10 団体について、「費用の調達」、「人員確保（活動募集の方法）」、「活動の内容（アピールポイント）」、「活動結果」、「課題及び苦勞した点」、「学識経験者、行政、他団体との連携」の概要をとりまとめたものを表 3-8 に示す。

「費用の調達」は、会費や寄付金、助成金で賄っている団体が多かった。自然体験ツアー等を実施している No.1 の団体では事業収入との回答もあった。

「人員確保（活動募集の方法）」は、ホームページや会員へ告知している団体が多かった。No.2 の団体では、インターンシップ制度及び国際ボランティアを活用するなど若い学生を多く受け入れていた。

「課題及び苦勞した点」は、各団体により異なるが、技術面、活動場所に関わる土地所有者の理解、維持・管理費、行政との連携等が挙げられた。

「学識経験者、行政、他団体との連携」では、10 団体中 8 団体が大学等の学識経験者との連携があり、No.8 では行政や市民団体等と連携している例もみられた。

なお、本ヒアリング調査は、直接団体へ話を伺ったものではなく、電話又はメールによる問い合わせのため、課題点等、内容については詳細をすべて把握していない可能性がある。

表 3-7 ヒアリング調査結果概要

No.	活動団体	実施主体	主な活動内容	費用の調達	人員確保 (活動募集の方法)	課題及び苦労した点	学識経験者、行政、 他団体との連携
1	白神自然学校一ツ森校	NPO法人	自然体験活動や人材養成講座並びにガイドの養成講座の実施、マタギ文化の伝承	事業収入、会費、寄付金、販売、助成金等	ホームページ、ニュースレター	—	大妻女子大学、白神山地を守る会
2	白神山地を守る会	NPO法人	白神山地における広葉樹の植林事業	寄付(特に企業)、会費、助成金等	ホームページ、インターンシップ制度、国際ボランティア	下草刈り、機材の消耗、維持費・管理費	インターンシップ、国際ボランティアの学生、東京工科大学、白神自然学校一ツ森校
4	久保川イーハトーブ自然再生協議会	任意団体	久保川流域(羽根橋上流域)の自然環境の調査研究、生物多様性に満ちた自然の保全再生	知勝院からの委託事業費、助成金、民間支援制度	研修会、イオンによるボランティア募集	ニセアカシアの繁茂、里山所有者の理解促進	東京大学大学院保全生態学研究室、水環境ネット東北
6	日本雁を保護する会	任意団体	ガンガモ類の保全活動、シジュウカラガン及びハクガンの繁殖地復元活動、冬みず田んぼの実施	冬期湛水は農家・自治体負担、モニタリングはボランティア、国の補助金や助成金等	出版物、パンフレット、カレンダー、マスコミ、行政の呼びかけ	慣行農法農家の理解を得ること	各分野の専門家、行政などラムサールを活かした地域づくり
8	宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	財団法人	伊豆沼・内沼の環境保全、鳥類保護、自然教育活動	—	—	ハクチョウの食圧、効果的な沈水植物の植栽方法、魚類・貝類の増殖方法など	学識経験者・国・県・市、市民団体との連携あり
9	白神ネイチャー協会	NPO法人	「白神・山の森・海の森、二つ森づくり」真瀬沢の造林地にブナの森づくり	助成金、寄付金	寄付を頂いている企業へ告知	種子の確保、後継者の育成	東京農大、近畿大学、弘前大学、北海道大学、森林総研
10	地球環境教育指導協会	NPO法人	北限のサンゴ「イソバナ」を秋田県海洋環境における財産として県民に訴え、保護活動を理解してもらうための生態調査と啓蒙活動	自費、一部助成金	会員へ告知	船代等の経費	秋田大学、秋田県博物館、琉球大学
11	猛禽類保護ネットワーク	NPO法人	環境省・猛禽類保護センターを支援しつつ、希少猛禽類の生息分布や生態などの調査研究、一般に対する普及啓発を実施	助成金	会員へ告知	猛禽類保護のための間伐方法の向上、下草刈り等の管理	学識経験者、東北森林管理局
12	庄内浜を考える会	NPO法人	アマモを移植する事で、以前の生態系を取り戻す活動	助成金	お客さん	アマモの適地選定、行政との連携	特になし
14	只見川流域自然誌研究会	任意団体	只見川流域に生息する蝶「キマダラルリツバメ」の生息地調査を通して自然環境に対する地域住民の意識向上のための情報発信	助成金	—	キリの放棄林の増加	特になし

注) 表中の「—」は特に回答を得られなかったことを示す。

3.4 まとめ

本調査により収集した保全活動団体は、基本的に助成金実績のある団体であるため、活動実績のある団体を抽出したと考えられた。

これらの団体の実施主体は、NPO 法人又は任意団体が7割と大部分を占めていた。

対象地については、森林環境及び里地里山環境で活動している団体が最も多く、湖沼環境、河川環境、海域環境と続き、都市・郊外や山岳環境で活動している団体は少なかった。

活動内容は、自然観察や講習会、機関誌等の発行などの普及啓発、森づくりや川遊び、農業体験など自然体験に関する活動が多く、続いてガンカモ類や希少猛禽類などの生息地・餌場環境の保全活動、森林整備・管理などを行っている団体が多かった。

活動内容は、NPO 法人の定義である「非営利で社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体」に表現されるように、生物多様性保全はもちろんのこと、普及啓発活動など社会貢献型の団体が多かった。

また、収集した団体は、普及啓発活動等で活動内容を外部に発信している、または外部と接触する機会を設けている団体が多かった。

対象種で最も多かったガンカモ類や希少猛禽類は、東北を代表する野生生物であり、これらを保護しようとする団体が多いと考えられた。

文化継承活動の特出する活動としては、白神山地を代表するマタギ文化と自然体験を組み合わせ合わせた環境教育、仙台平野のいぐね（屋敷林）を活用した環境教育・学習プログラム、地域のお年寄りの一対一で話を聞き、森づくり・地域づくりを行う活動等があった。

ヒアリング調査結果として、費用の調達は事業収入を得ている団体は1団体のみで、他の団体は、会費や寄付金、助成金で賄っている団体がほとんどであった。活動募集の方法は、ホームページを利用している団体は2団体のみで、他団体は、会員や寄付企業に対する募集がほとんどであった。課題点については、技術面、土地所有者の理解、維持・管理費、行政等との連携が挙げられた。学識経験者、行政、他団体との連携では、10団体中の8団体で学識経験者または市民団体、行政との連携があった。

ヒアリング調査を行った団体は一部であったが、資金面、技術面、調整面で課題点を抱えている団体が多かった。一方で、学識経験者や行政、他団体と連携している団体も多く、技術面・情報共有等で積極的に連携していることが伺えた。

第4章 リーフレットの作成

4.1 目的

リーフレット作成は、本業務において収集・整理した東北地方の生物多様性重要地点・種及び保全活動について、生物多様性条約第10回締約国会議（以下、COP10という。）に情報提供するとともに今後の普及啓発に資することを目的とした。

4.2 対象

本リーフレットはCOP10の展示ブースで配布されることから、展示ブースに来訪すると予想されるCOP10会議参加者等専門家、企業や個人等の一般来場者、出展者等を対象とした。従って、リーフレットの内容は、専門家等にとって有益な情報を掲載すると共に、文章は一般の方々にもわかりやすい表現を用いることとした。

4.3 基本的な考え方

リーフレットの作成にあたっては、東北地方の生物多様性重要地点・種及び保全活動を国内外にアピールするため、ビジュアル・文章でわかりやすい表現を用いると共に、適正な英語で資料を作成する必要がある。

上記を踏まえ、以下の考え方に沿ってリーフレットを作成した。

①ビジュアルでわかりやすいレイアウト

- ・リーフレットのデザインは第一印象で最も重要であることから、プロのデザイナーを活用し、ビジュアルでわかりやすいレイアウトとする。
- ・すぐれた保全活動をアピールする写真について可能な限り活用し、ビジュアル性と資料性を高める。必要に応じてフォトライブラリー等の写真を利用する。

②東北らしさに着目したリーフレットの作成

- ・海外からの来訪者へのアピール性を高めるために、リーフレットに記載する生物多様性重要地点・種及び保全活動等の選定においては、世界遺産やラムサール条約湿地、固有種、固有の文化等東北らしさに着目する。

③英語力及び海外プロジェクトの経験を活用した資料作成

- ・英語資料の作成では、海外の生物多様性プロジェクトを担当した技術者が担当し、さらにネイティブチェックを行う。

4.4 構成及び掲載項目・内容の選定

リーフレットの構成及び掲載項目・内容選定の考え方を表 4-1 に示す。

東北地方の生物多様性重要地点・種の情報については、「日本の国立公園のリーフレット」(2002年3月 環境省)と同様に、見開き一面に地図を配置し、重要地点・種の説明を記載した。

東北地方の優れた保全活動については、「3.3.4 調査結果のとりまとめ (2) 1)リーフレット掲載団体の選定」で示すとおり、森林環境、里地・里山環境、湖沼・海域環境、希少種の保全の4つのテーマごとに2団体を選定して記載した。

東北地方環境事務所の取り組みは、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」で国内野生希少動植物に指定されているイヌワシ、チョウセンキバナアツモリソウ、オオセッカの保護増殖事業等を選定した。

リーフレットの導入部として、生物多様性の説明を裏表紙(2ページ)に、東北地方の自然環境の特性を3ページに示した。

表 4-1 リーフレット (A1 両面カラー8ツ折り) の構成

頁	掲載項目	掲載内容	掲載項目及び内容選定の考え方
1	表紙	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴタイトル ・動植物等写真 	写真は東北地方で撮影された動植物等を掲載した。
2	裏表紙	<ul style="list-style-type: none"> ・「個性」と「つながり」の生物多様性 ・生物多様性のめぐみ ・表紙の生物の名前 ・奥付・連絡先、ホームページ 	リーフレット導入部として、生物多様性の概要(定義及び生物多様性のめぐみ(生態系サービス))を掲載することとした。
3	東北地方自然環境の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の地形と気候 ・東北地方の生物多様性 	リーフレット導入部として、東北地方の自然環境の概要(東北地方の地形と気候、生物多様性)を掲載することとした。
4	東北地方環境事務所の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・イヌワシの保護増殖事業(猛禽類保護センター含む) ・チョウセンキバナアツモリソウの保護増殖事業 ・オオセッカの生息環境調査事業 	東北地方環境事務所で実施している「種の保存法」で国内野生希少動植物に指定されている希少種の保護増殖事業等の取り組みを選定した。
5	優れた活動事例	テーマ1: 森林環境の保全	3.3.4 調査結果のとりまとめ (2) 1)リーフレット掲載団体の選定で示すとおり、各テーマ別に2団体選定して掲載した。
6		テーマ2: 里地・里山環境の保全	
7		テーマ3: 湖沼・海域環境の保全	
8		テーマ4: 希少種の保全	
片面見開き	東北地方生物多様性重要地域マップ	<ul style="list-style-type: none"> ・重要地域及び種の説明、写真 <ol style="list-style-type: none"> ①世界自然遺産 ②国立公園 ③国定公園 ④県立自然公園 ⑤ラムサール条約湿地 ⑥国指定鳥獣保護区 ⑦国指定自然環境保全地域 ⑧県自然環境保全条例による指定地域 ⑨森林生態系保護地域等保護林 ⑩緑の回廊 ⑪日本の重要湿地 500 ・東北地方の動植物等写真 	「日本の国立公園のリーフレット」と同様、東北地方の地形図を中央に配置するとともに、生物多様性の観点からの重要地域(ホットスポット)を表示することとした(第2章参照)。また、条約、国が指定している地域については、地域並びに生息・生育する種の解説と写真を配置した。

4.5 掲載写真の出典

リーフレットの掲載写真は全て東北地方で撮られた、若しくは確認されている種の写真を用いた。

また、掲載写真は、東北地方環境事務所のアクティブレンジャー、保全活動団体、フォトライブラリーから提供又は購入した写真を利用した。

リーフレット各頁における掲載写真の出典は、表 4-1 に示す通りである。

4.6 参考文献

リーフレット作成に関する参考文献を表 4-2 に示す。

表 4-2 リーフレット作成に関する参考文献

掲載項目	掲載写真の出典	参考文献
表紙	東北地方環境事務所より提供 (アクティブレンジャー写真展)	—
裏表紙	—	・環境省生物多様性ホームページ http://www.biodic.go.jp/biodiversity/
東北地方 自然環境 の特性	東北地方環境事務所より提供 (アクティブレンジャー写真展、 アクティブレンジャー日記等)	・岩波生物学辞典 (平成 7 年 3 月 八杉 竜一他)
東北地方 環境事務 所の取り 組み	東北地方環境事務所より提供	下記資料及びヒアリング結果を参考とした。 ・平成 21 年度イヌワシ繁殖状況調査報告書 (平成 22 年 3 月 東北地方環境事務所) ・平成 21 年度チョウセンキバナアツモリソ ウ生息状況等調査業務報告書 (平成 22 年 1 月 東北地方環境事務所) ・平成 21 年度チョウセンキバナアツモリソ ウ保護増殖事業検討業務報告書 (平成 22 年 3 月) ・平成 20 年度国指定大潟草原鳥獣保護区オ オセッカ生息環境追跡調査報告書 (平成 21 年 2 月 東北緑化環境保全株式 会社) ・平成 21 年度国指定大潟草原鳥獣保護区オ オセッカ生息環境追跡調査報告書 (平成 22 年 2 月 東北地方環境事務所)
優れた活 動事例	各保全活動団体より提供	各保全活動団体へのヒアリング調査結果に よる (第 3 章参照)
東北地方 生物多様 性重要地 域マップ	[越後三山只見] : 只見町観光まちづくり協会 [ハヤチネウスユキソウ、早池 峰] : 花巻観光写真ライブラリー [クマゲラ、ツキノワグマ、ギフ チョウ、ニホンザル、下北、津 軽、栗駒、蔵王、男鹿、鳥海、 最上川]: PIXTA より購入 [ニコウイワナ] : 日本工営株式会社より提供 [上記以外の写真]: 東北地方環 境事務所より提供 (アクティブ レンジャー写真展、アクティブ レンジャー日記等)	下記資料及び生物多様性重要地点・種の情報 (第 2 章参照) を参考とした。 ・東北地方環境事務所業務概要リーフレット (平成 22 年 3 月) ・環境省国立公園ホームページ ・環境省国定公園ホームページ ・日本の国立公園 (平成 21 年 12 月 財団法人自然公園財団)

4.7 成果品

成果品は、資料 3-1 に掲載する。